

高等学校での「生活におけるリスク」および
損害保険の教育に関する調査報告書

令和3年12月

一般社団法人 日本損害保険協会

目次

I. 調査概要	2
1. 調査目的	2
2. 調査対象と調査対象数	2
3. 調査対象選定の方法	2
4. 調査方法	2
5. 調査時期	2
6. 有効回答数	2
7. 調査実施機関	2
II. 回答者の属性	4
III. 調査結果	9
1. リスクや損害保険に関する理解・認識について	9
2. 「生活におけるリスク」に関する教育の実施状況について	11
3. 今後の「生活におけるリスク」に関する教育について	22
4. 損害保険に関する教育の実施状況について	28
5. 今後の損害保険に関する教育について	39
6. 今後の学校での「生活におけるリスク」および損害保険の教育について	47

I. 調査概要

1. 調査目的

平成 30 年告示の学習指導要領解説で、生活上のリスクに対する備えや自助の観点などから、「公共」や「家庭」の授業で「民間保険」について触れることが示されている。また、2022 年 4 月に民法改正により成年年齢が 18 歳に引き下げられる。こうした状況を踏まえ、「生活におけるリスク」および損害保険に関する高等学校での教育の実態や教員の意見を把握し、本調査結果をもとに、これらの教育の浸透に向けた教育ツールの提供などを推進する。

2. 調査対象と調査対象数

調査対象区分	発送数(件)
全国の高等学校の公民科担当教員	5,015
全国の高等学校の家庭科担当教員	5,015
計	10,030

3. 調査対象選定の方法

『全国学校データ』(販売:教育ソリューション株式会社)の「全国学校データ 高等学校」に基づき、2021 年 9 月時点での全国の高等学校(5,015 件)を選定した。

4. 調査方法

郵送配布一郵送・Web併用回収

*調査票発送 10 日後には、未回答の高等学校から単純無作為抽出法により、全国で 1000 件を選定し、電話による督促を行った。

5. 調査時期

2021 年 9 月 27 日～2021 年 10 月 25 日

6. 有効回答数

1,629 件 (回収率:16.2%)

調査対象区分	有効回答数(件)
全国の高等学校の公民科担当教員	700
全国の高等学校の家庭科担当教員	936

*「F4. 担当教科・科目(複数回答可)」の設問で「公民科(現代社会)」または「公民科(政治・経済)」を選択した場合、公民科担当教員として集計し、「家庭科(家庭基礎)」、「家庭科(家庭総合)」または「家庭科(生活デザイン)」を選択した場合、家庭科担当教員として集計している。両教科を担当しているとの回答があるため、全体の有効回答数と各担当教科の有効回答数(件)の合計は一致しない。

7. 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

【本調査におけるデータの見方】

- ・ 本報告書の図表の数値は、各設問回答者の割合、構成比をパーセントで表示しており、四捨五入による表示のため、単数回答項目の回答割合の合計が100%にならない場合(99%、101%等)がある。
- ・ 複数回答の設問においては、選択肢が2つ以上を回答している場合もあるため、回答割合の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文及び図表では、調査票の選択肢を一部簡略化又は省略している場合がある。
- ・ 回答数が少ない場合は、回答誤差が大きくなることから参考値として扱う。
- ・ 総回収数に占める担当教科の割合は「家庭科」が全体の約6割(57.5%)を占めている。このため、全体の数値を見る場合は「家庭科」の影響が大きいことを考慮する必要がある。
- ・ F4 担当教科・科目について
複数回答可の設問のため、各担当教科・科目を合計すると調査数よりも多くなる。
F4で「その他」の回答や無回答だった場合は、集計対象に含めない。
- ・ 図表の「n数」は、サンプル数(データの数)を示している。
- ・ 「無回答」の扱い
本調査は郵送／インターネット・自記入式調査であるため、記入忘れを後から聞きなおすことは出来ない。また、回答者がすべての設問への回答ができない場合もあり、「無回答」が一定数存在している。

Ⅱ. 回答者の属性

F1. 学校所在地

回答のあった高等学校の所在地の構成比を見ると、全体では、「南関東」が17.8%で最も高く、次いで「北海道・東北」が15.9%、「近畿」が14.1%となっている。

図表 1. 学校所在地 <単一回答>

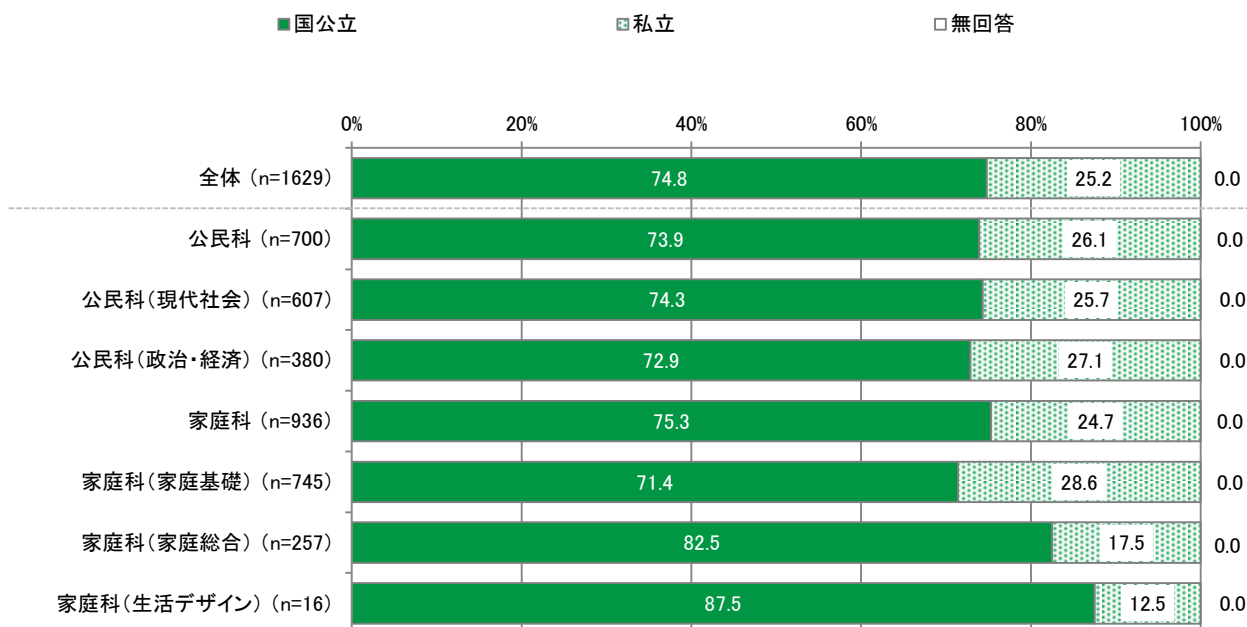
各項目はパーセント表示

		n数	北海道・東北	南関東	北関東・甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	無回答
全体		1629	15.9	17.8	9.0	6.0	10.7	14.1	7.7	5.0	13.5	0.4
担当教科・科目	公民科	700	16.4	17.9	8.4	5.9	10.3	14.6	8.7	5.1	12.1	0.6
	公民科(現代社会)	607	16.3	17.3	9.4	4.8	10.9	13.7	9.6	4.9	12.9	0.3
	公民科(政治・経済)	380	17.9	22.6	6.8	6.1	9.2	12.9	6.1	5.3	12.4	0.8
	家庭科	936	15.4	17.7	9.4	6.0	11.0	13.7	7.1	4.9	14.5	0.3
	家庭科(家庭基礎)	745	15.3	17.2	9.5	6.3	11.7	14.8	7.4	4.3	13.2	0.4
	家庭科(家庭総合)	257	16.3	16.3	6.6	6.6	9.7	9.3	6.6	8.2	20.2	-
家庭科(生活デザイン)	16	6.3	6.3	25.0	-	12.5	18.8	6.3	6.3	18.8	-	

F2. 学校区分

回答のあった高等学校の学校区分に関して、全体では「国公立」が74.8%、「私立」が25.2%となっている。

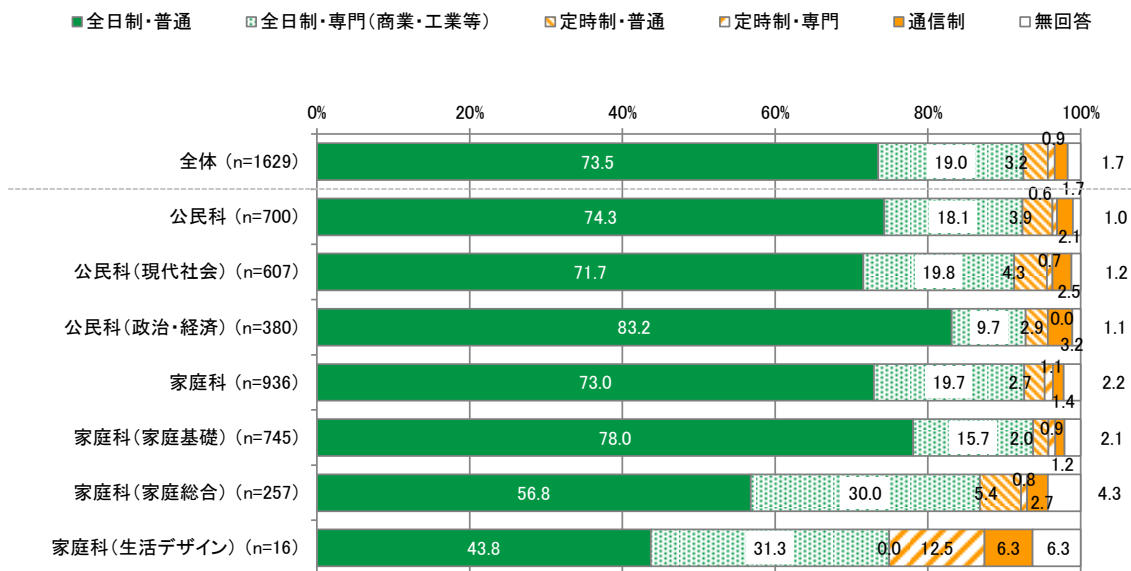
図表 2. 学校区分 <単一回答>



F3. 課程・学科区分

回答のあった高等学校のうち、「全日制・普通」が73.5%、次いで「全日制・専門(商業・工業等)」が19.0%となっている。

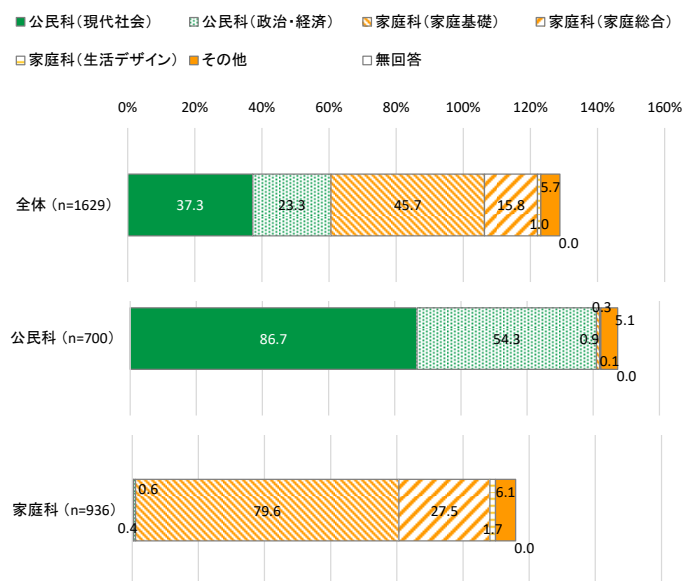
図表 3. 課程・学科区分 <単一回答>



F4. 担当教科・科目

公民科教員の教えている科目として最も多いものが「公民科(現代社会)」(86.7%)、家庭科教員の教えている科目として最も多いものが「家庭科(家庭基礎)」(79.6%)である。

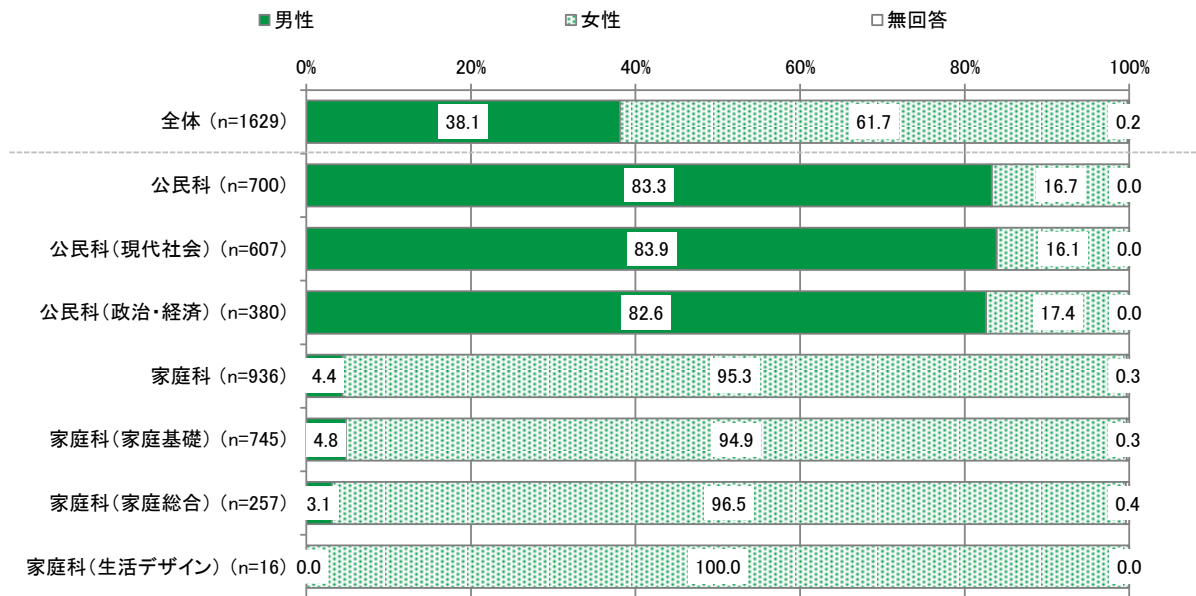
図表 4. 担当教科・科目 <複数回答>



F5. 性別

回答者の性別は、「女性」が61.7%、「男性」が38.1%となっている。

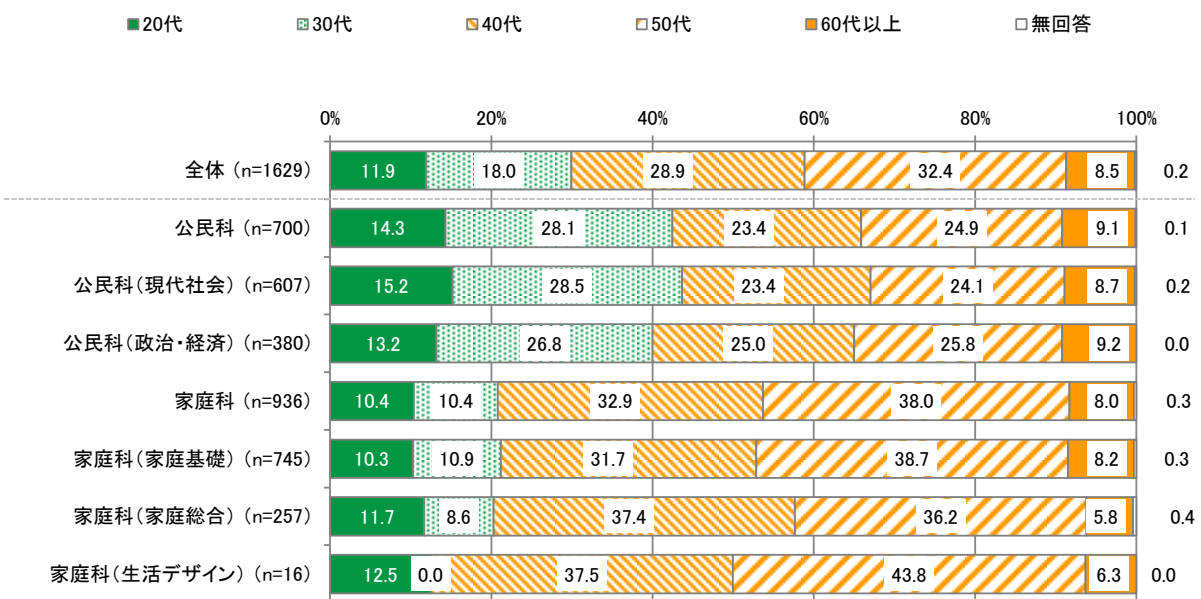
図表 5. 性別 <単一回答>



F6. 年齢

回答者の年代は、「50代」が32.4%で最も多く、次いで「40代」が28.9%、「30代」が18.0%となっている。

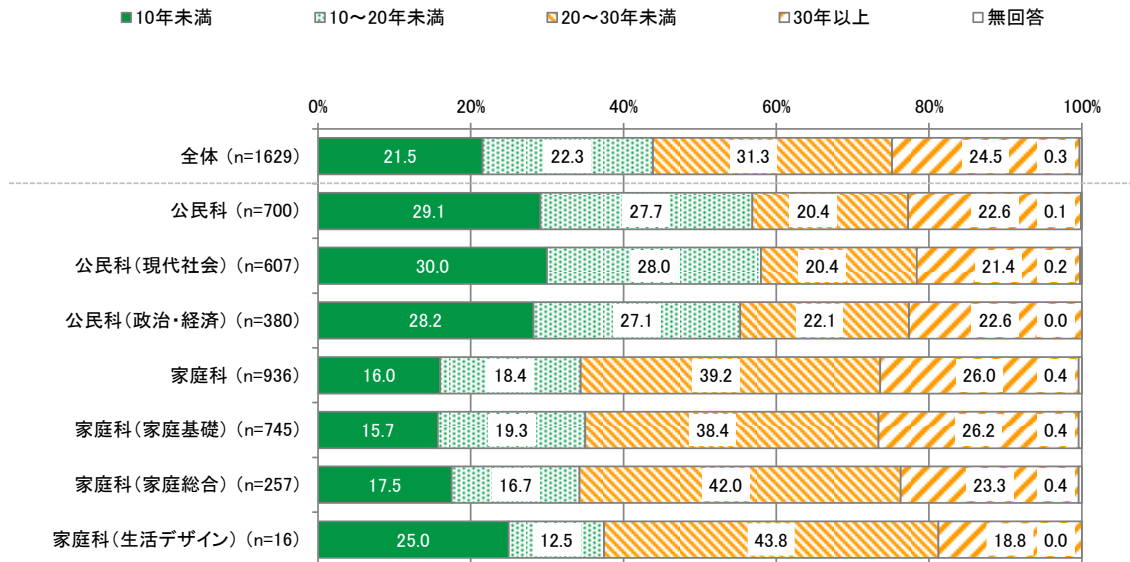
図表 6. 年齢 <単一回答>



F7. 教員歴

回答者の教員歴は、「20～30年未満」が31.3%で最も高く、次いで「30年以上」が24.5%、「10～20年未満」が22.3%、「10年未満」が21.5%となっている。

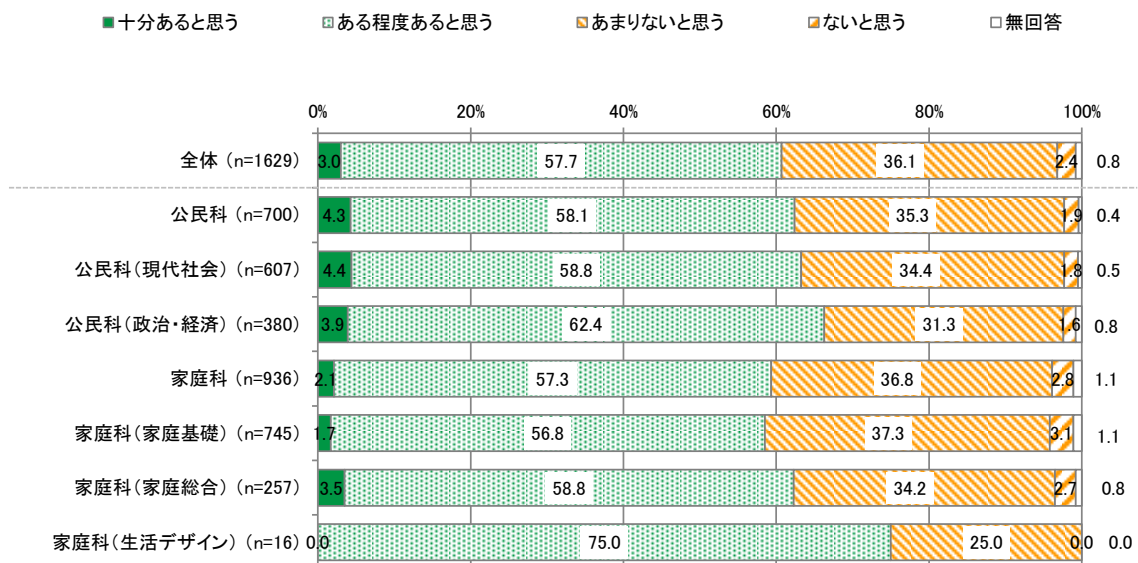
図表 7. 教員歴 <単一回答>



F8. 保険についての知識

保険について知識があると思っている割合(「十分あると思う」+「ある程度あると思う」)は60.7%となっている。

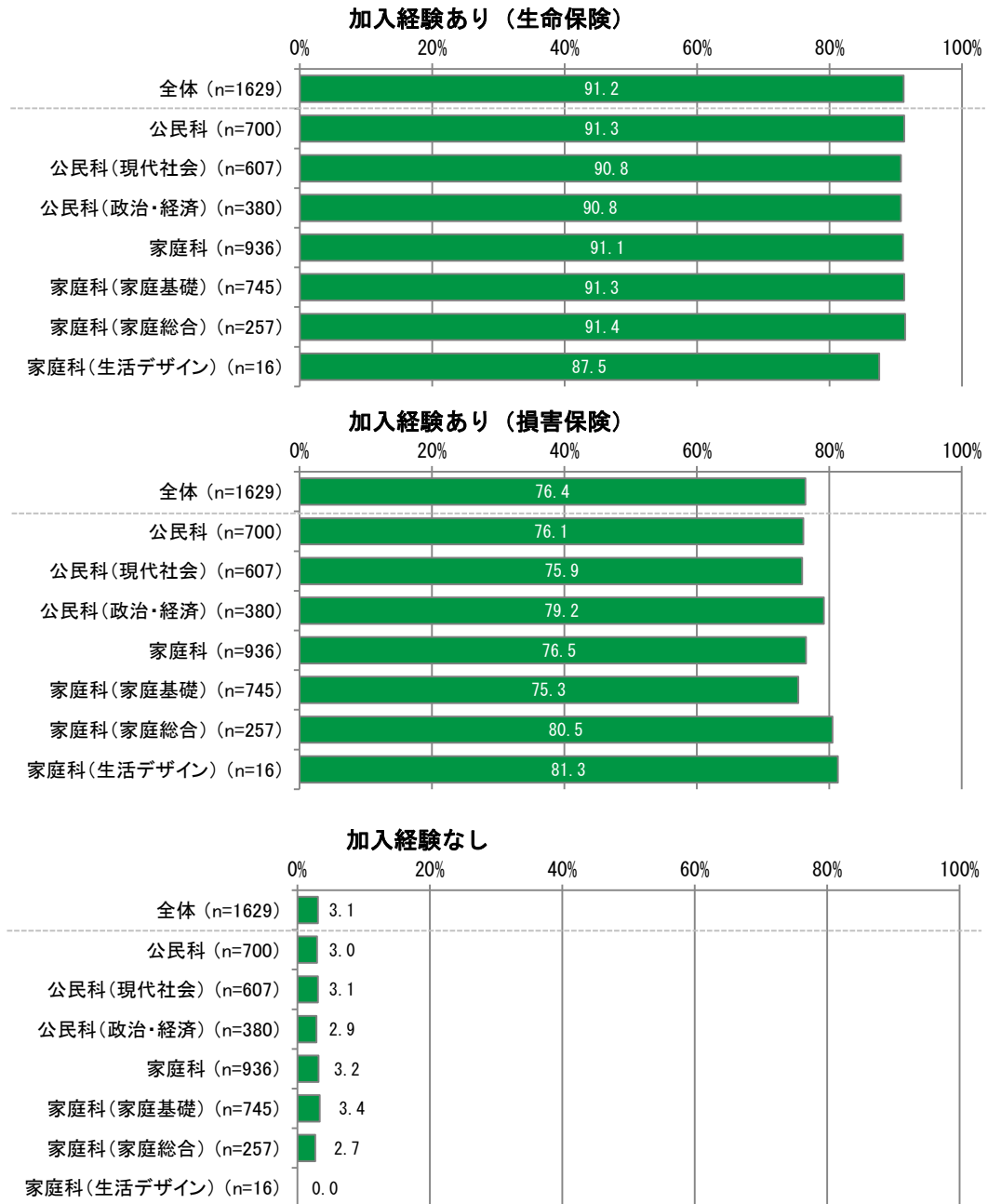
図表 8. 保険についての知識 <単一回答>



F9. 保険の加入経験(自身が契約者となったものに限る)

保険の加入経験について、全体では「加入経験あり(生命保険)」が 91.2%、「加入経験あり(損害保険)」が 76.4%、「加入経験なし」が 3.1%となっている。

図表 9. 保険の加入経験(自身が契約者となったものに限る) <複数回答>



Ⅲ. 調査結果

1. リスクや損害保険に関する理解・認識について

問 1. 生徒は「生活におけるリスク」*1 や損害保険に関する以下の事項について理解・認識があるとお考えですか。

*1 本調査における「生活におけるリスク」とは、事故、病気、失業や災害などの生活上直面するリスクのことを指す。

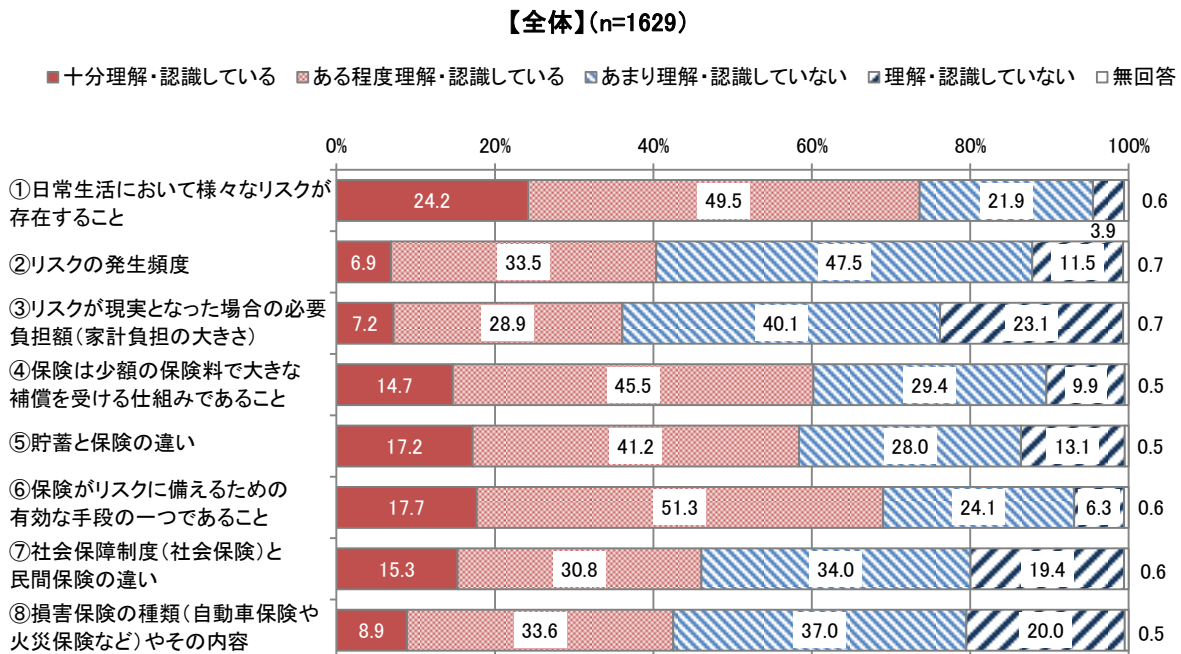
(1) 全体

生徒の「生活におけるリスク」や損害保険に関する理解や認識度合いをたずねたところ、「①日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」を理解・認識している(「十分理解・認識している」+「ある程度理解・認識している」)割合が 73.7%と最も高く、次いで「⑥保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」を理解・認識している割合が 69.0%となっている。

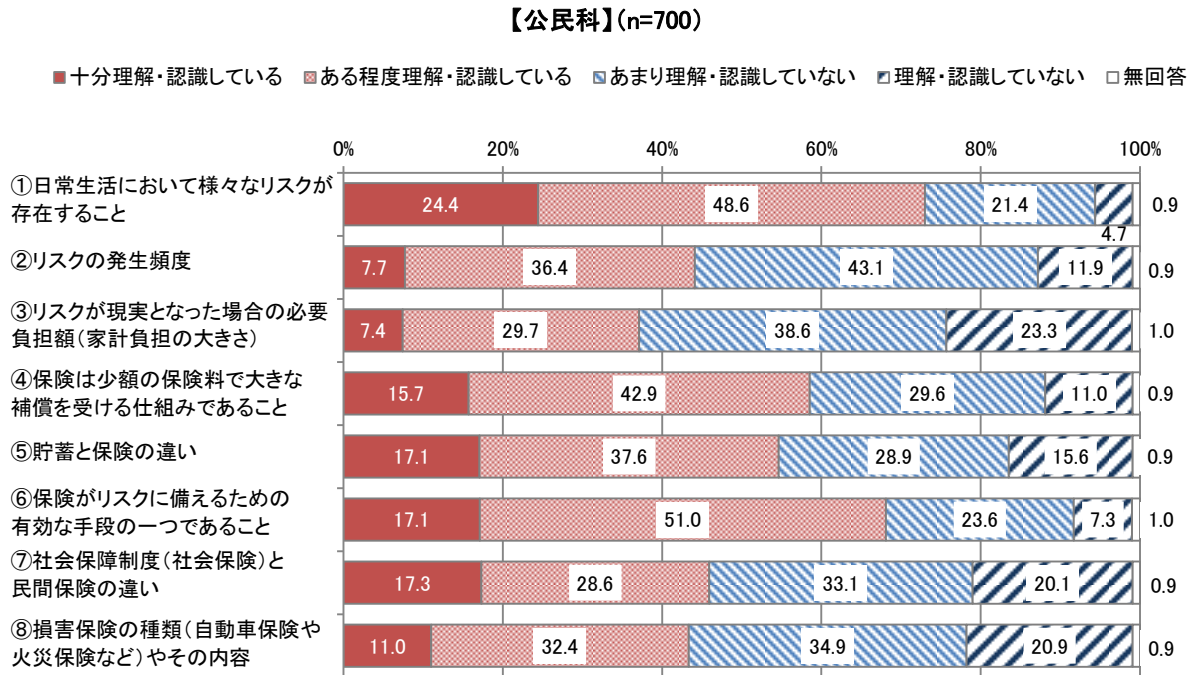
(2) 担当教科・科目別

各項目の理解・認識度(「十分理解・認識している」+「ある程度理解・認識している」)をみると、公民科では「②リスクの発生頻度」を理解・認識している割合が 44.1%に対し、家庭科では 37.5%となっており、公民科の方が理解・認識している割合が高かった。同様に家庭科では、「⑤貯蓄と保険の違い」を理解・認識している割合が 61.3%に対し、公民科では 54.7%となっており、家庭科の方が貯蓄と保険の違いについての理解・認識度合いが高かった。

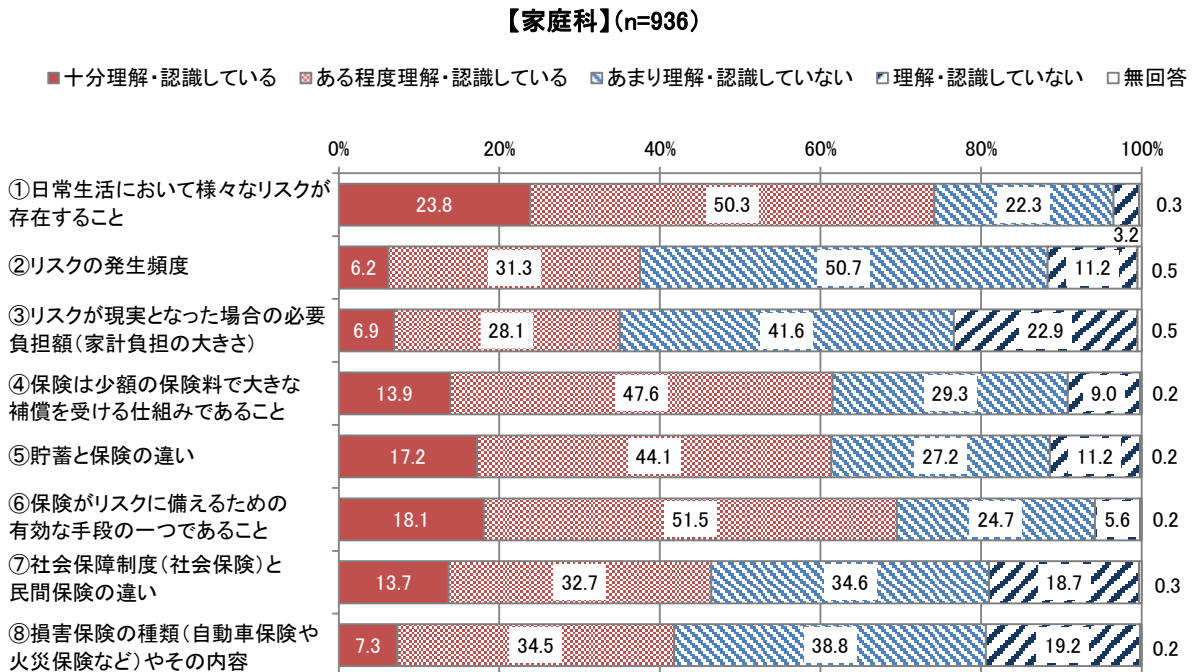
図表 10. 生徒の「生活におけるリスク」や損害保険に関する理解・認識の度合い【全体】 <単一回答>



図表 11. 生徒の「生活におけるリスク」や損害保険に関する理解・認識の度合い【公民科】 <単一回答>



図表 12. 生徒の「生活におけるリスク」や損害保険に関する理解・認識の度合い【家庭科】 <単一回答>



2. 「生活におけるリスク」に関する教育*2の実施状況について

*2 本調査における「生活におけるリスク」に関する教育・授業とは、事故、病気、失業や災害などの生活上直面するリスクについて教育または授業を行うことを指す。

問 2. 「生活におけるリスク」に関する教育を実施していますか。

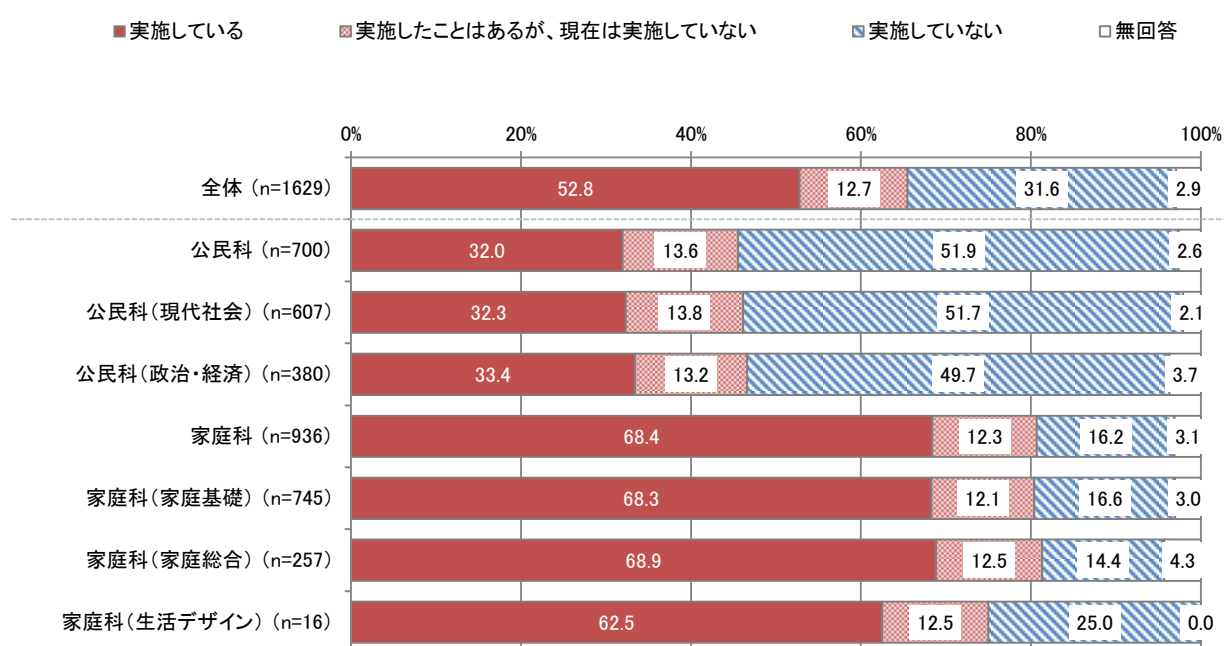
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を「実施している」割合は全体では 52.8%で最も高く、次いで「実施していない」割合は 31.6%であった。

(2) 担当教科・科目別

「生活におけるリスク」教育の実施状況について、教科別にみると、現在「実施している」という回答は公民科では 32.0%、家庭科は 68.4%となっており、家庭科の方が公民科に比べて、現在「生活におけるリスク」の教育を実施している割合が高いことがわかる。

図表 13. 「生活におけるリスク」に関する教育の実施有無 <単一回答>



問 2-1. 「生活におけるリスク」に関する授業はどのような内容ですか。

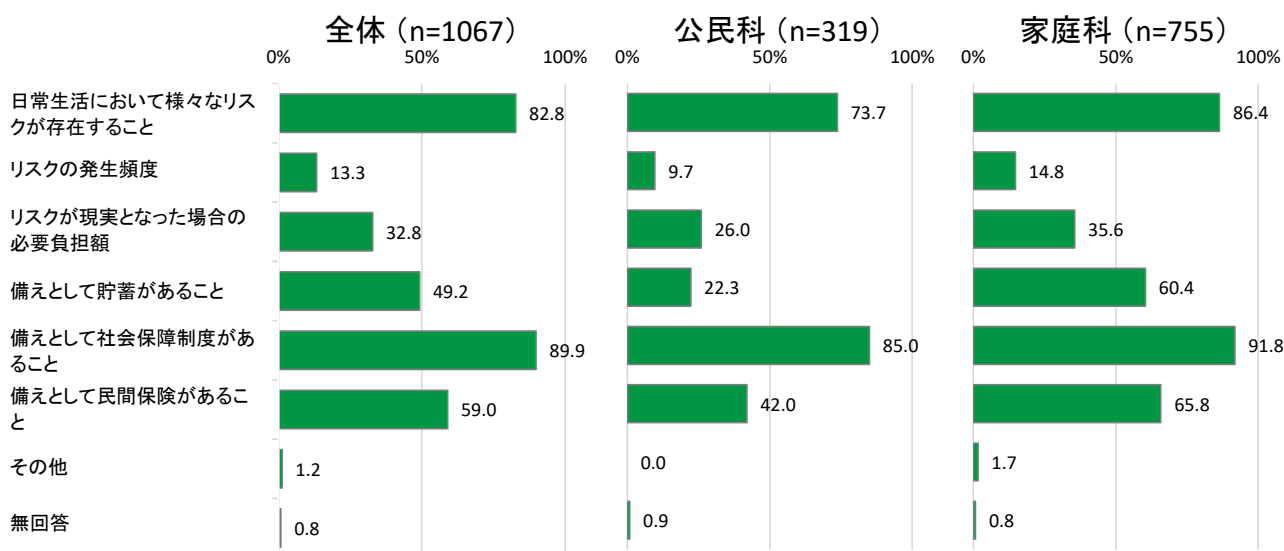
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、授業内容についてたずねたところ、「備えとして社会保険制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること」が 89.9%で最も高く、次いで、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 82.8%、「備えとして民間保険(生命保険や損害保険など)があること」が 59.0%であった。

(2) 担当教科・科目別

家庭科では「備えとして貯蓄があること」が 60.4%、一方で公民科では 22.3%となっており、家庭科は「備えとして貯蓄があること」を授業内容として扱っている割合が高く、「備えとして民間保険(生命保険や損害保険など)があること」について、家庭科で 65.8%、公民科で 42.0%と、家庭科の方が「備えとして民間保険(生命保険や損害保険など)があること」を授業内容として扱っている割合が高い。教科によって「生活におけるリスク」の授業内容が異なることがわかる。

図表 14. 「生活におけるリスク」に関する授業の内容 <複数回答>



	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額	備えとして貯蓄があること	備えとして社会保険制度があること	備えとして民間保険があること	その他	無回答	
全体	1067	82.8	13.3	32.8	49.2	89.9	59.0	1.2	0.8	
担当教科・科目	公民科	319	73.7	9.7	26.0	22.3	85.0	42.0	-	0.9
	公民科(現代社会)	280	73.6	10.7	27.5	22.1	84.3	41.4	-	1.1
	公民科(政治・経済)	177	72.3	8.5	23.2	20.3	89.8	41.8	-	0.6
	家庭科	755	86.4	14.8	35.6	60.4	91.8	65.8	1.7	0.8
	家庭科(家庭基礎)	599	86.3	13.9	32.9	58.1	91.2	63.9	1.7	0.8
	家庭科(家庭総合)	209	87.6	15.8	42.6	68.4	94.3	74.2	2.9	0.5
家庭科(生活デザイン)	12	91.7	16.7	25.0	41.7	91.7	58.3	-	-	

問 2-2. 現在、「生活におけるリスク」に関する年間の実施授業時間はどの程度ですか。学年ごとにご回答ください。

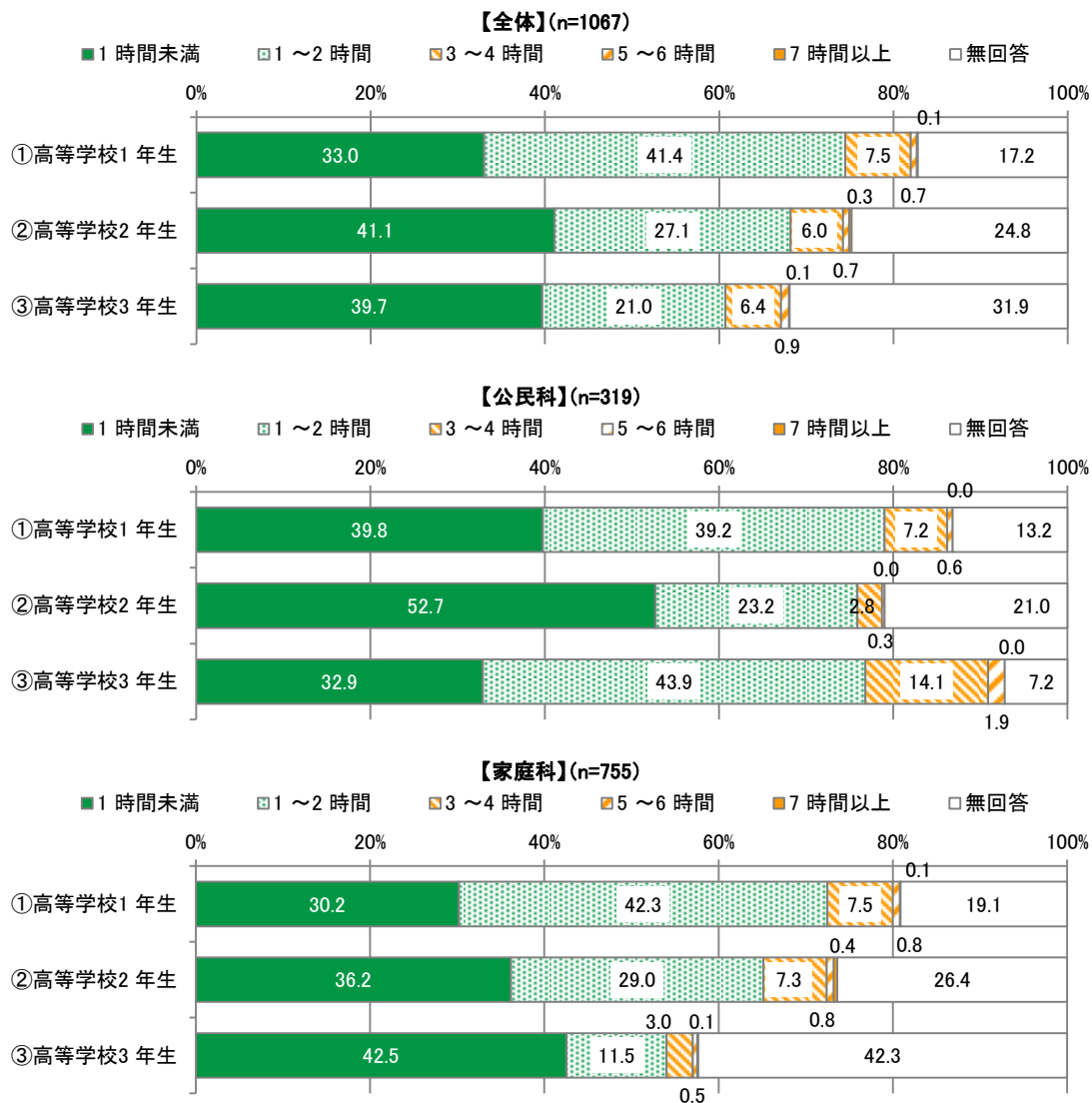
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、年間の授業時間をたずねたところ、学年別では高等学校 1 年生で「1～2 時間」(41.4%)、高等学校 2 年生で「1 時間未満」(41.1%)、高等学校 3 年生で「1 時間未満」(39.7%)が最も高かった。各学年いずれも 2 時間以内が 6 割を占めている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で比較すると、公民科では高等学校 3 年生の「1～2 時間」(43.9%)、「3～4 時間」(14.1%)が他学年と比較して割合が高く、家庭科では高等学校 1 年生の「1～2 時間」(42.3%)、「3～4 時間」(7.5%)が他学年と比較して割合が高い。

図表 15. 「生活におけるリスク」に関する各学年の年間の実施授業時間 < 単一回答 >



問 2-3. 「生活におけるリスク」に関する授業を実施している場合、どの単元で実施していますか。

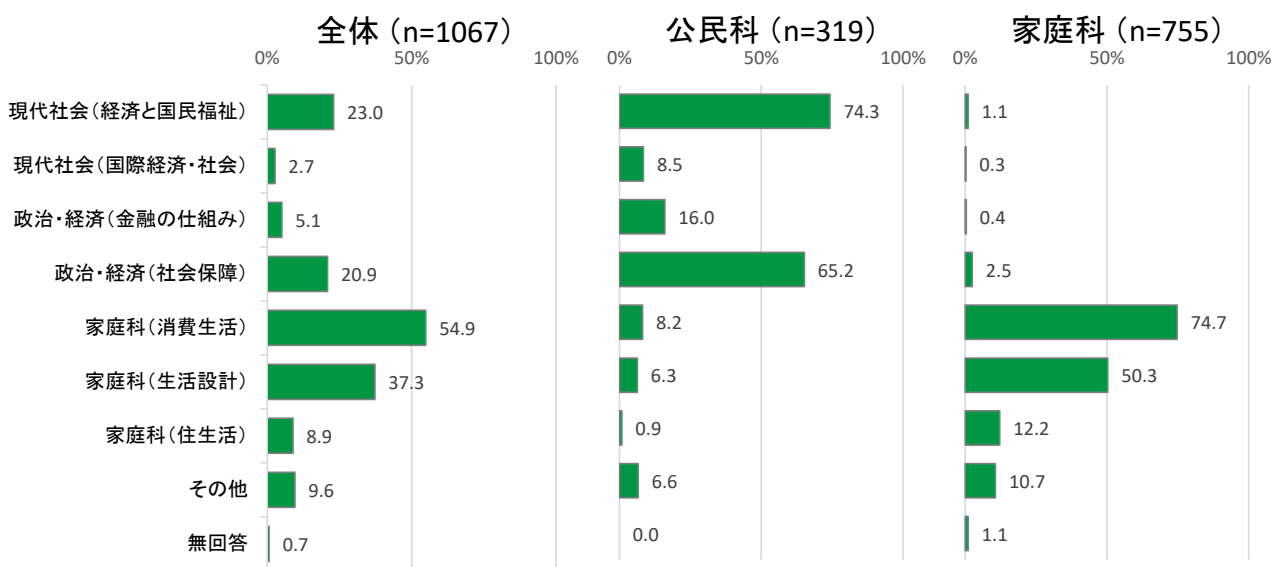
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、どの単元で実施しているかたずねたところ、「家庭科(消費生活)」が 54.9%と最も高く、次いで「家庭科(生活設計)」が 37.3%であった。

(2) 担当教科・科目別

公民科では、「現代社会(経済と国民福祉)」、「政治・経済(社会保障)」で「生活におけるリスク」に関する授業を実施している割合が高い。家庭科では「家庭科(消費生活)」が最も高く、次いで「家庭科(生活設計)」となっている。

図表 16. 「生活におけるリスク」に関する授業を実施している単元 <複数回答>



		n数	現代社会(経済と国民福祉)	現代社会(国際経済・社会)	政治・経済(金融の仕組み)	政治・経済(社会保障)	家庭科(消費生活)	家庭科(生活設計)	家庭科(住生活)	その他	無回答
全体		1067	23.0	2.7	5.1	20.9	54.9	37.3	8.9	9.6	0.7
担当教科・科目	公民科	319	74.3	8.5	16.0	65.2	8.2	6.3	0.9	6.6	-
	公民科(現代社会)	280	79.6	9.6	14.6	61.8	8.6	5.7	0.7	7.1	-
	公民科(政治・経済)	177	67.2	7.3	23.2	85.9	7.3	5.6	0.6	2.8	-
	家庭科	755	1.1	0.3	0.4	2.5	74.7	50.3	12.2	10.7	1.1
	家庭科(家庭基礎)	599	1.0	0.2	0.3	3.0	73.6	48.9	11.2	11.9	1.0
	家庭科(家庭総合)	209	1.9	0.5	0.5	1.4	80.4	55.0	13.9	6.2	1.0
家庭科(生活デザイン)	12	-	-	-	8.3	66.7	58.3	25.0	8.3	-	

問 3. 授業で取り上げた「生活におけるリスク」に関する授業の内容について、生徒は関心を持っていましたか。

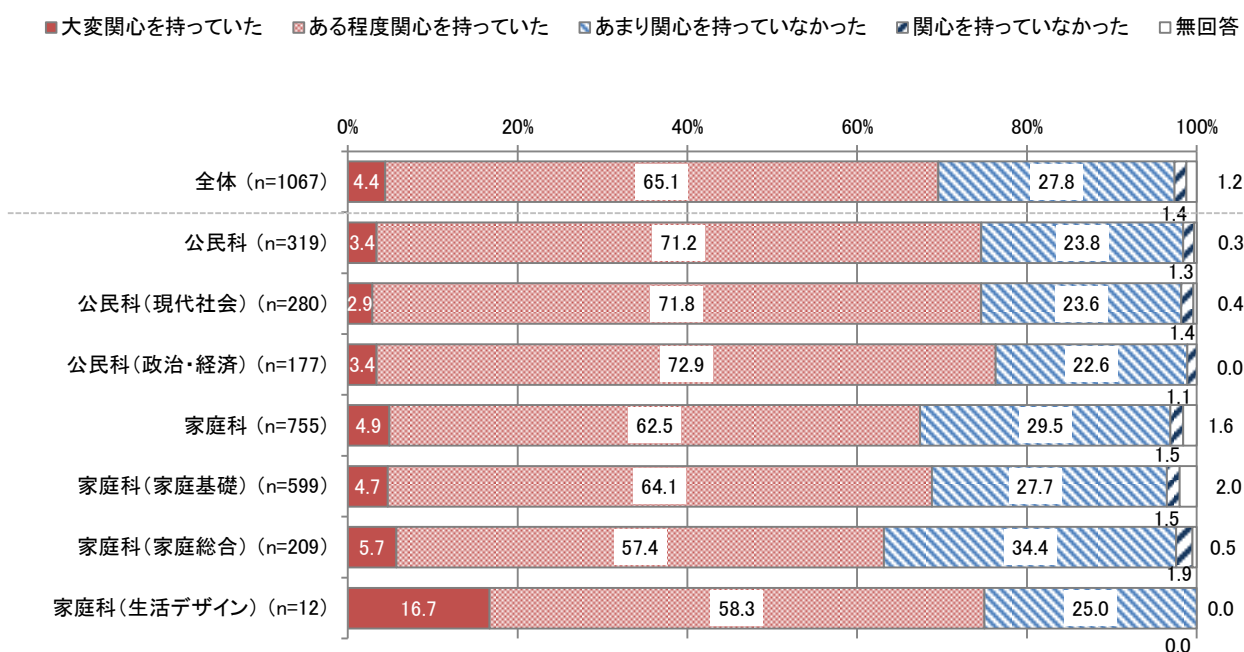
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、生徒の関心度合いをたずねたところ、「ある程度関心を持っていた」が 65.1%と最も高く、「大変関心を持っていた」(4.4%)と合わせて、69.5%が授業内容について関心を持っていることがわかる。

(2) 担当教科・科目別

公民科は授業内容に関心を持っていた(「大変関心を持っていた」+「ある程度関心を持っていた」)が 74.6%、家庭科は 67.4%となっており、公民科の方が家庭科よりも授業内容に関心を持っていた割合が高い。

図表 17. 「生活におけるリスク」に関する授業の内容における生徒の関心度 <単一回答>



問 3-1. 生徒たちが関心を持っていたのはどんなことですか。

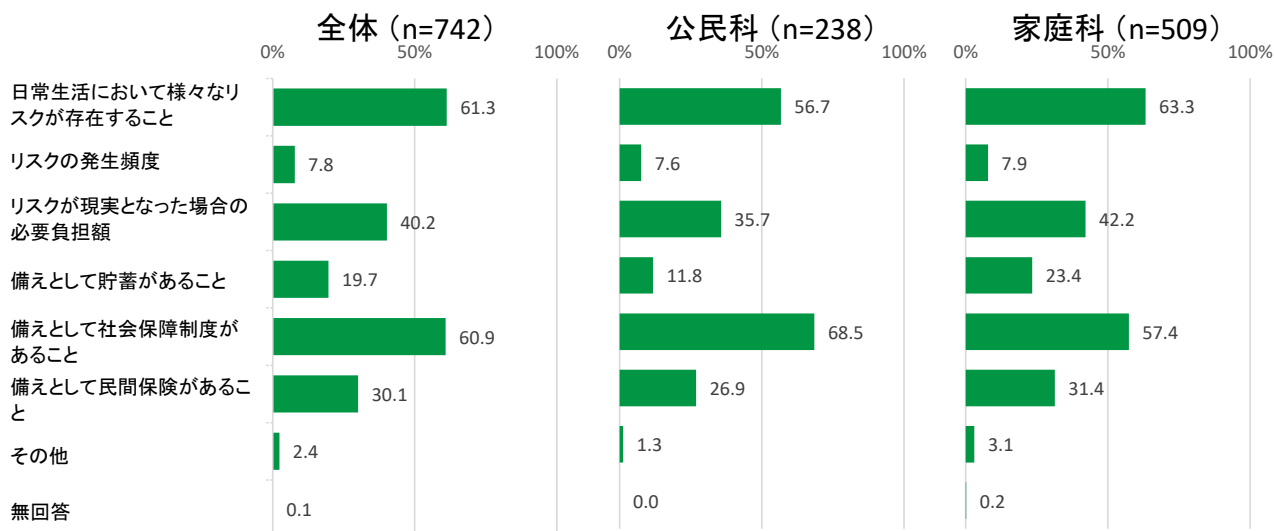
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがあり、生徒が授業内容に関心があると回答した高等学校に対し、関心のあった授業内容をたずねたところ、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 61.3%と最も高く、次いで「備えとして社会保障制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること」が 60.9%となっている。

(2) 担当教科・科目別

教科別に見てみると、公民科では「備えとして社会保障制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること」が 68.5%と最も高く、家庭科では「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 63.3%と最も高い。教科によって、生徒が関心を持つ授業内容が異なっていた。

図表 18. 生徒が関心を持っていた授業内容 <複数回答>



	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額	備えとして貯蓄があること	備えとして社会保障制度があること	備えとして民間保険があること	その他	無回答	
全体	742	61.3	7.8	40.2	19.7	60.9	30.1	2.4	0.1	
担当教科・科目	公民科	238	56.7	7.6	35.7	11.8	68.5	26.9	1.3	-
	公民科(現代社会)	209	57.9	8.6	37.8	12.0	69.4	26.8	1.0	-
	公民科(政治・経済)	135	52.6	7.4	33.3	13.3	72.6	30.4	1.5	-
	家庭科	509	63.3	7.9	42.2	23.4	57.4	31.4	3.1	0.2
	家庭科(家庭基礎)	412	63.3	7.3	40.8	23.3	57.5	29.4	3.4	0.2
	家庭科(家庭総合)	132	64.4	8.3	44.7	21.2	56.8	37.1	3.0	-
家庭科(生活デザイン)	9	88.9	11.1	33.3	22.2	55.6	22.2	-	-	

問 3-2. 生徒たちの関心があまりない要因はどこにあると思いますか。

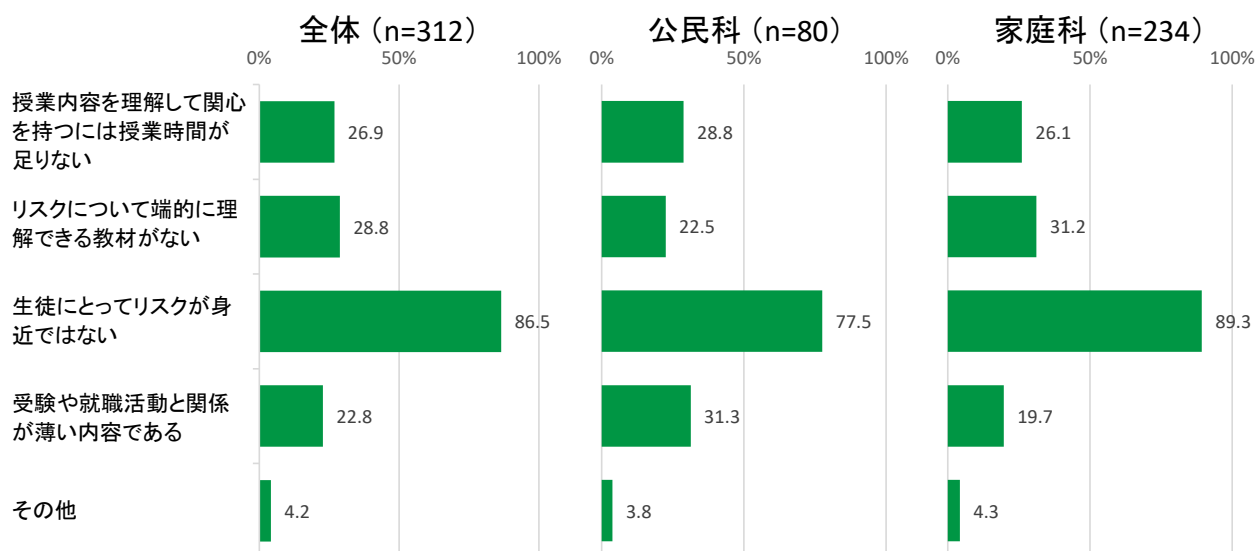
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがあるが、生徒が授業内容に関心がないと回答した高等学校に対し、関心のない要因をたずねたところ、「生徒にとってリスクが身近ではない」が 86.5%と最も高く、次いで「リスクについて端的に理解できる教材がない」が 28.8%、「授業内容を理解して関心を持つには授業時間が足りない」が 26.9%であった。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「生徒にとってリスクが身近ではない」が最も割合が高いが、それ以外の要因として公民科では「受験や就職活動と関係が薄い内容である」が 31.3%であるのに対し、家庭科では「リスクについて端的に理解できる教材がない」が 31.2%となっている。

図表 19. 生徒が授業内容に関心のない要因 <複数回答>



		n数	授業内容を理解して関心を持つには授業時間が足りない	リスクについて端的に理解できる教材がない	生徒にとってリスクが身近ではない	受験や就職活動と関係が薄い内容である	その他
全 体		312	26.9	28.8	86.5	22.8	4.2
担当教科・科目	公民科	80	28.8	22.5	77.5	31.3	3.8
	公民科(現代社会)	70	31.4	22.9	77.1	30.0	2.9
	公民科(政治・経済)	42	19.0	23.8	78.6	33.3	7.1
	家庭科	234	26.1	31.2	89.3	19.7	4.3
	家庭科(家庭基礎)	175	23.4	28.0	90.9	23.4	4.0
	家庭科(家庭総合)	76	27.6	42.1	88.2	13.2	3.9
家庭科(生活デザイン)	3	66.7	33.3	100.0	33.3	-	

問 4. 「生活におけるリスク」に関する授業を実施する際に課題と感ずることはありますか。

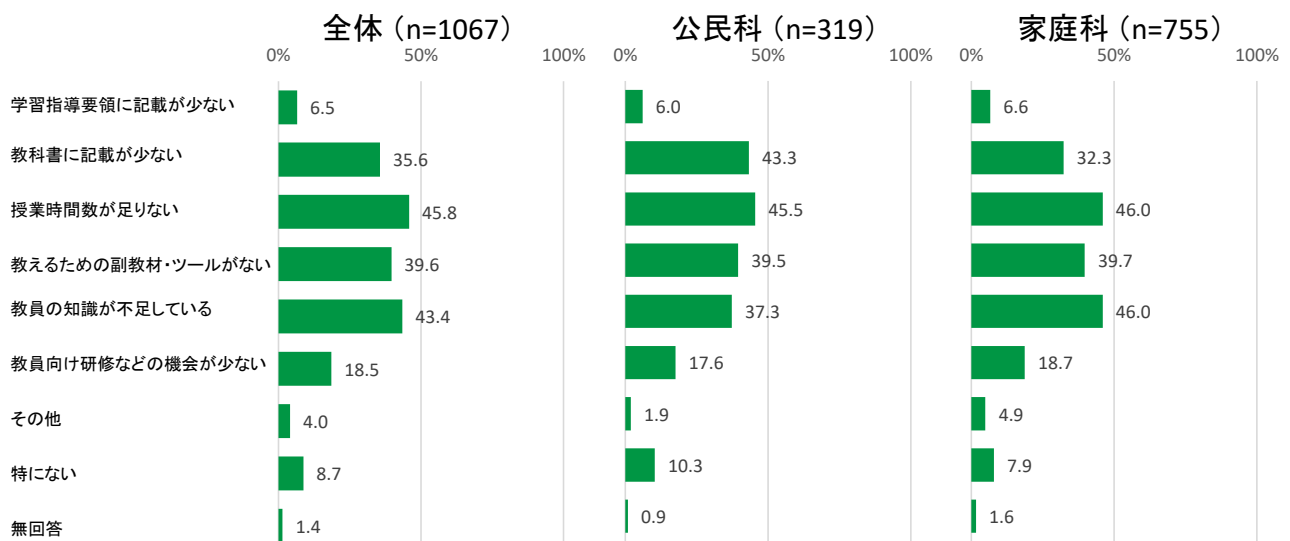
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、授業を実施する際の課題をたずねたところ、「授業時間数が足りない」が 45.8%と最も高く、次いで「教員の知識が不足している」が 43.4%、「教えるための副教材・ツールがない」が 39.6%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して「授業時間数が足りない」が最も高く、次いで公民科では「教科書に記載が少ない」(43.3%)、「教えるための副教材・ツールがない」(39.5%)となっており、授業を行う際の教材が不足していることを課題と感じている。一方で家庭科では「教員の知識が不足している」(46.0%)が続き、教える側の知識不足に課題を感じている。

図表 20. 「生活におけるリスク」に関する授業を実施する際の課題 <複数回答>



	n数	学習指導要領に記載が少ない	教科書に記載が少ない	授業時間数が足りない	教えるための副教材・ツールがない	教員の知識が不足している	教員向け研修などの機会が少ない	その他	特になし	無回答	
全 体	1067	6.5	35.6	45.8	39.6	43.4	18.5	4.0	8.7	1.4	
担当教科・科目	公民科	319	6.0	43.3	45.5	39.5	37.3	17.6	1.9	10.3	0.9
	公民科(現代社会)	280	5.4	43.9	45.4	39.3	37.1	18.6	2.1	9.3	0.7
	公民科(政治・経済)	177	9.6	40.7	45.8	38.4	35.0	18.6	-	11.9	1.7
	家庭科	755	6.6	32.3	46.0	39.7	46.0	18.7	4.9	7.9	1.6
	家庭科(家庭基礎)	599	8.0	32.6	48.2	38.1	44.7	17.5	4.7	8.0	2
	家庭科(家庭総合)	209	2.9	32.5	38.3	46.4	49.8	20.6	7.2	7.2	1
家庭科(生活デザイン)	12	8.3	41.7	50.0	41.7	41.7	25.0	-	-	-	

問5. 教科書は、「生活におけるリスク」に関する授業を行うにあたって十分な内容が記載されていると思いますか。

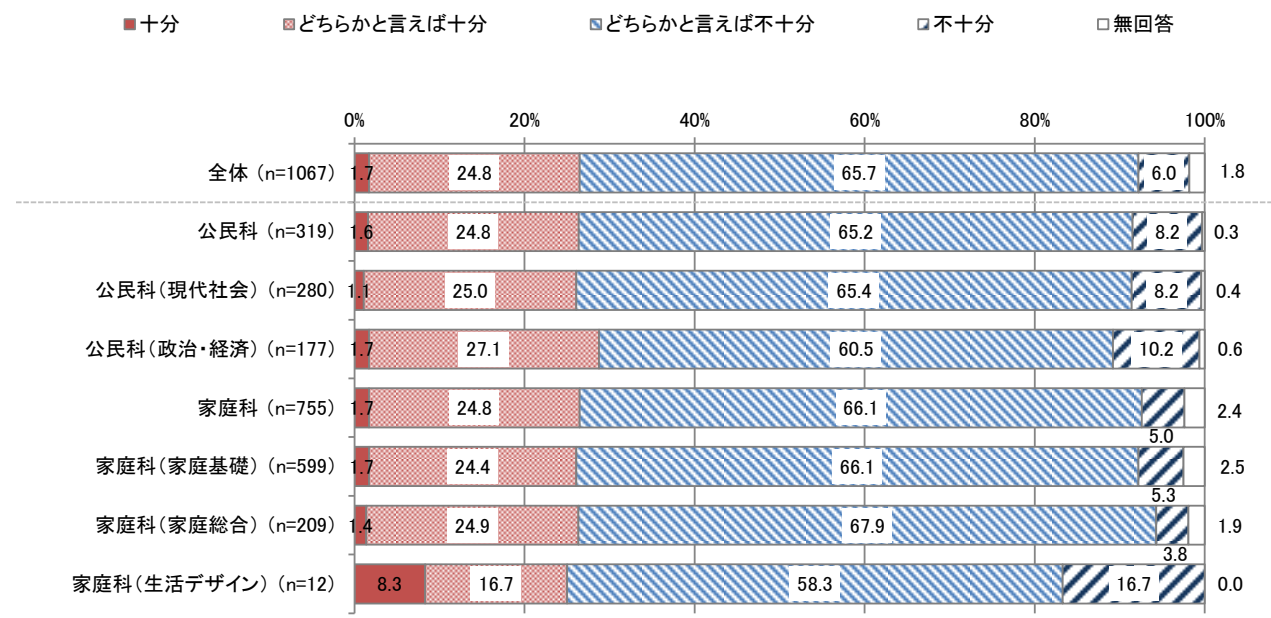
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、授業を実施する際の教科書に十分な内容が記載されているかたずねたところ、「どちらかと言えば不十分」が 65.7%で最も高い。「不十分」(6.0%)を含め、教科書に記載されている内容は不十分だと感じている割合が 71.7%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「どちらかと言えば不十分」が最も高く、「不十分」も含め公民科では 73.4% (65.2%+8.2%)、家庭科では 71.1% (66.1%+5.0%)と 7 割以上が「生活におけるリスク」の授業をするにあたって教科書の内容が不十分だと感じている。

図表 21. 「生活におけるリスク」に関する授業で用いる教科書の内容 <単一回答>



問 6. 「生活におけるリスク」に関する教育の実施にあたって教科書以外に利用しているものはありますか。

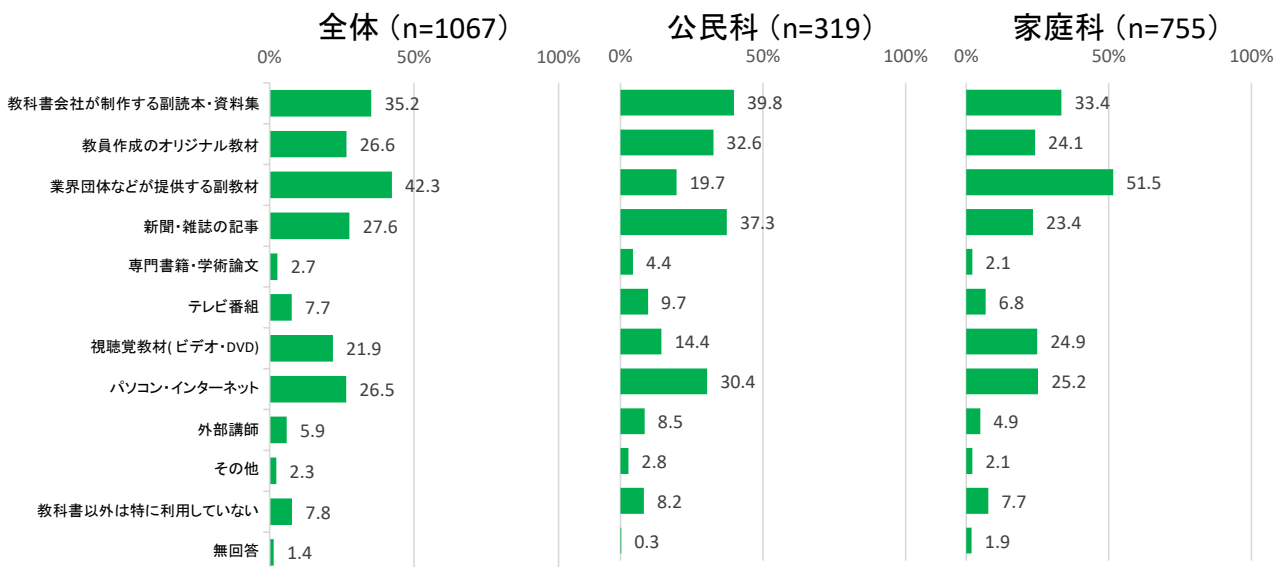
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育を実施したことがある高等学校に対し、教科書以外に利用している教材をたずねたところ、「業界団体などが提供する副教材」が 42.3%と最も高く、次いで、「教科書会社が制作する副読本・資料集」が 35.2%となっている。

(2) 担当教科・科目別

教科別でみると、「新聞・雑誌の記事」について公民科は 37.3%だが、家庭科は 23.4%であり、公民科の方が、家庭科よりも新聞や雑誌の記事を授業で利用している割合が高い。「業界団体などが提供する副教材」では、家庭科は 51.5%と最も高く、一方で公民科は 19.7%となっており、家庭科の方が業界団体等の副教材を利用している割合が高い。

図表 22. 「生活におけるリスク」に関する教育での教科書以外に利用しているもの <複数回答>



担当教科・科目	n数	教科書会社が制作する副読本・資料集	教員作成のオリジナル教材	業界団体などが提供する副教材	新聞・雑誌の記事	専門書籍・学術論文	テレビ番組	視聴覚教材(ビデオ・DVD)	パソコン・インターネット	外部講師	その他	教科書以外は特に利用していない	無回答	
全体	1067	35.2	26.6	42.3	27.6	2.7	7.7	21.9	26.5	5.9	2.3	7.8	1.4	
公民科	公民科	319	39.8	32.6	19.7	37.3	4.4	9.7	14.4	30.4	8.5	2.8	8.2	0.3
	公民科(現代社会)	280	39.3	33.2	20.7	38.9	5.0	9.6	15.0	31.1	8.2	2.1	7.5	0.4
	公民科(政治・経済)	177	44.1	33.3	19.8	35.6	4.5	9.0	14.1	31.1	7.9	2.3	7.3	-
	家庭科	755	33.4	24.1	51.5	23.4	2.1	6.8	24.9	25.2	4.9	2.1	7.7	1.9
	家庭科(家庭基礎)	599	32.6	25.0	49.6	22.2	2.3	5.8	23.5	24.7	4.5	2.0	8.2	2.2
	家庭科(家庭総合)	209	34.9	20.6	56.9	27.8	2.9	10.0	28.7	28.7	5.7	2.4	7.7	1.4
家庭科(生活デザイン)	12	50.0	33.3	25.0	-	-	-	16.7	16.7	-	-	16.7	-	

問7.「生活におけるリスク」に関する教育を現在実施していない、または実施したことがない理由をお聞かせください。

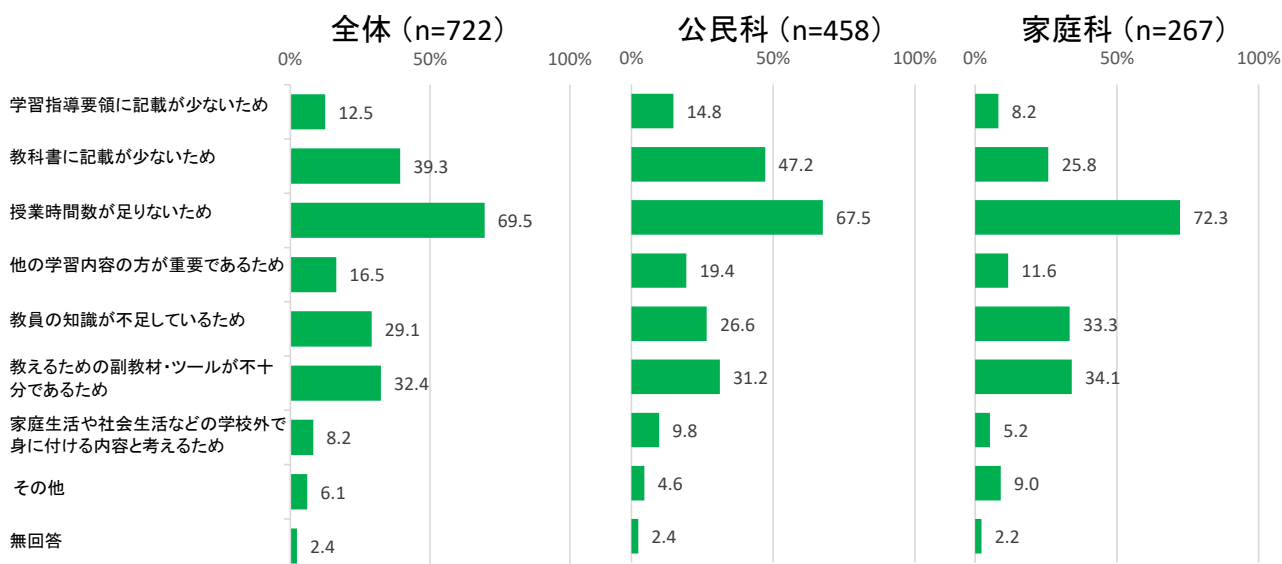
(1)全体

「生活におけるリスク」教育を現在実施していない高等学校に対し、実施していない理由をたずねたところ、「授業時間数が足りないため」が69.5%で最も高く、約7割となっており、次いで「教科書に記載が少ないため」が39.3%となっている。

(2)担当教科・科目別

各教科で共通して、「授業時間数が足りないため」が最も高くなっている。「教科書に記載が少ないため」について、教科別にみても、公民科は47.2%、家庭科は25.8%となっており、公民科の方が家庭科に比べて割合が高い。

図表 23. 「生活におけるリスク」に関する教育を現在実施していない、または実施したことがない理由
 <複数回答>



担当教科・科目	n数	学習指導要領に記載が少ないため	教科書に記載が少ないため	授業時間数が足りないため	他の学習内容の方が重要であるため	教員の知識が不足しているため	教えるための副教材・ツールが不十分であるため	家庭生活や社会生活などの学校外で身に付ける内容と考えるため	その他	無回答		
		全体	722	12.5	39.3	69.5	16.5	29.1	32.4	8.2	6.1	2.4
公民科	公民科	458	14.8	47.2	67.5	19.4	26.6	31.2	9.8	4.6	2.4	
	公民科(現代社会)	398	15.6	47.5	67.8	18.8	25.1	29.6	10.1	4.8	2.8	
	公民科(政治・経済)	239	17.2	43.9	68.2	21.8	25.9	30.1	9.2	5.9	2.9	
	家庭科	家庭科	267	8.2	25.8	72.3	11.6	33.3	34.1	5.2	9.0	2.2
		家庭科(家庭基礎)	214	7.9	26.6	74.3	12.6	33.6	32.2	4.7	7.5	2.3
		家庭科(家庭総合)	69	8.7	30.4	63.8	8.7	36.2	40.6	8.7	13.0	2.9
		家庭科(生活デザイン)	6	16.7	66.7	50.0	33.3	33.3	50.0	-	-	-

3. 今後の「生活におけるリスク」に関する教育について

問 8. 「生活におけるリスク」に関する教育について、どのようにお考えですか。

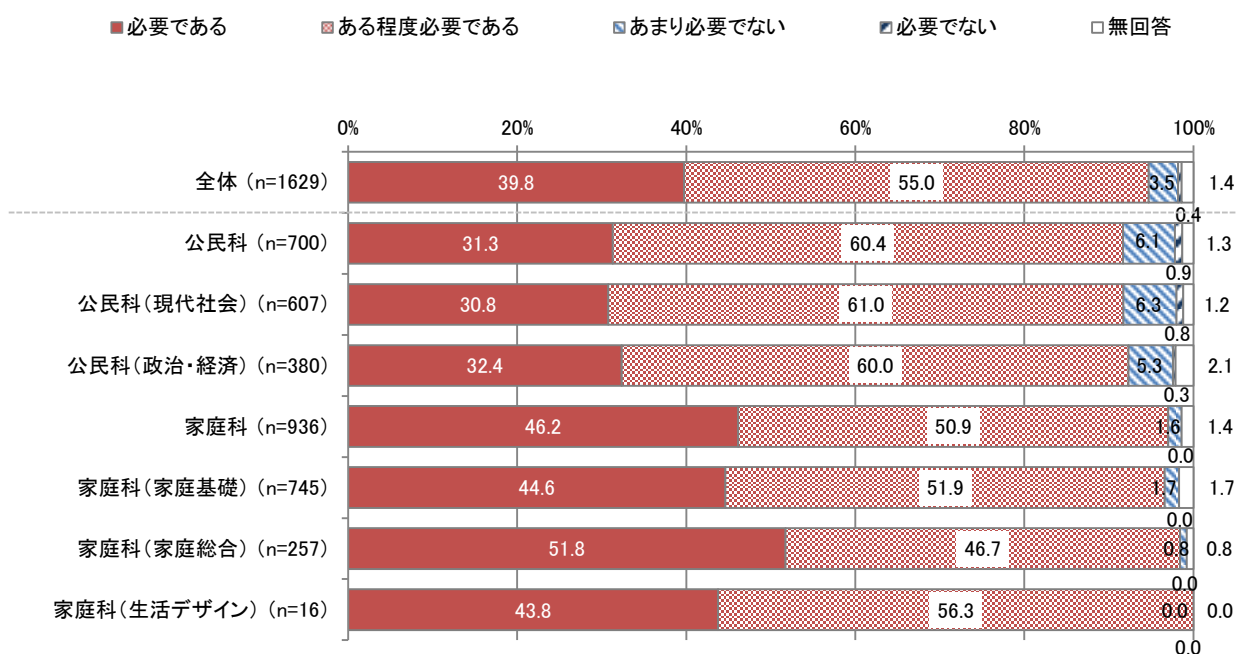
(1) 全体

全体では、「生活におけるリスク」に関する教育について、「ある程度必要である」が 55.0%、次いで、「必要である」が 39.8%であり、合わせて 9 割以上が「生活におけるリスク」に関する教育が必要であると感じている。

(2) 担当教科・科目別

教科別にみても、「必要である」について公民科が 31.3%に対し、家庭科が 46.2%であった。家庭科の方が、「生活におけるリスク」に関する教育の必要性を高く感じている割合が高い。

図表 24. 「生活におけるリスク」に関する教育についての必要性 <単一回答>



問 8-1. 「生活におけるリスク」に関する教育が必要と考える理由をお聞かせください。

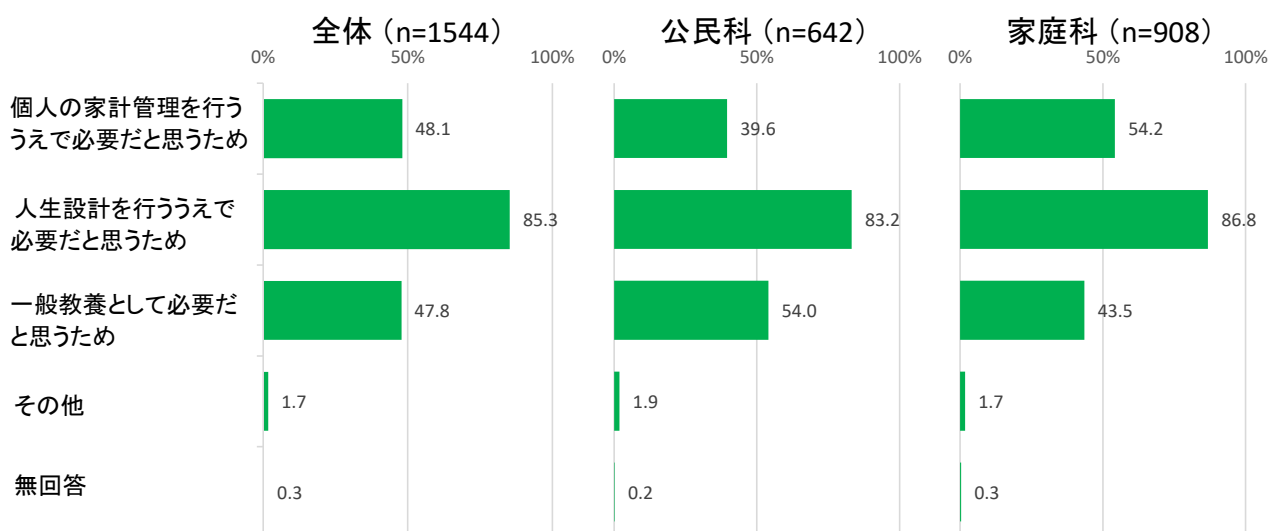
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な理由をたずねたところ、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」が 85.3%で最も高く、次いで「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」、「一般教養として必要だと思うため」がいずれも 5 割近くの回答 (48.1%、47.8%) となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して「人生設計を行ううえで必要だと思うため」が最も高くなっている。教科別にみても、次いで公民科は「一般教養として必要だと思うため」が 54.0%となっており、家庭科は「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」が 54.2%となっている。

図表 25. 「生活におけるリスク」に関する教育が必要と考える理由 <複数回答>



		n数	個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため	人生設計を行ううえで必要だと思うため	一般教養として必要だと思うため	その他	無回答
全 体		1544	48.1	85.3	47.8	1.7	0.3
担当教科・科目	公民科	642	39.6	83.2	54.0	1.9	0.2
	公民科(現代社会)	557	37.3	82.8	53.5	2.0	0.2
	公民科(政治・経済)	351	41.0	83.8	56.4	1.4	0.3
	家庭科	908	54.2	86.8	43.5	1.7	0.3
	家庭科(家庭基礎)	719	53.8	86.6	45.6	1.4	0.1
	家庭科(家庭総合)	253	56.9	87.7	41.9	2.8	0.8
	家庭科(生活デザイン)	16	43.8	93.8	37.5	-	-

問 8-2. 「生活におけるリスク」に関する教育について、年間の授業時間はどの程度必要だとお考えですか。

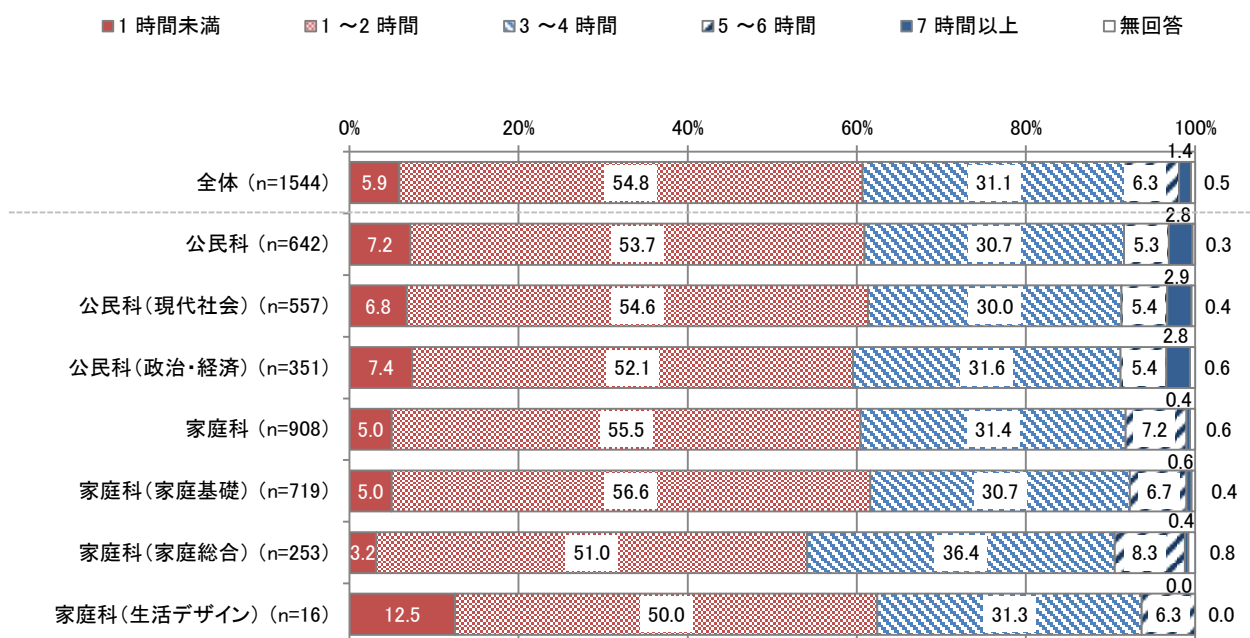
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な授業時間数をたずねたところ、「1～2 時間」が 54.8%と最も高く、次いで「3～4 時間」が 31.1%であった。8 割以上が 1～4 時間以内の授業時間が必要だと考えている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「1～2 時間」が最も高く、次いで「3～4 時間」となっている。1～4 時間以内の授業時間数が必要だと考えている割合が各教科で 8 割以上である。

図表 26. 「生活におけるリスク」に関する教育の年間の授業時間数 <単一回答>



問 8-3. 「生活におけるリスク」に関する教育について、今後必要だと考える授業の内容についてお聞かせください。

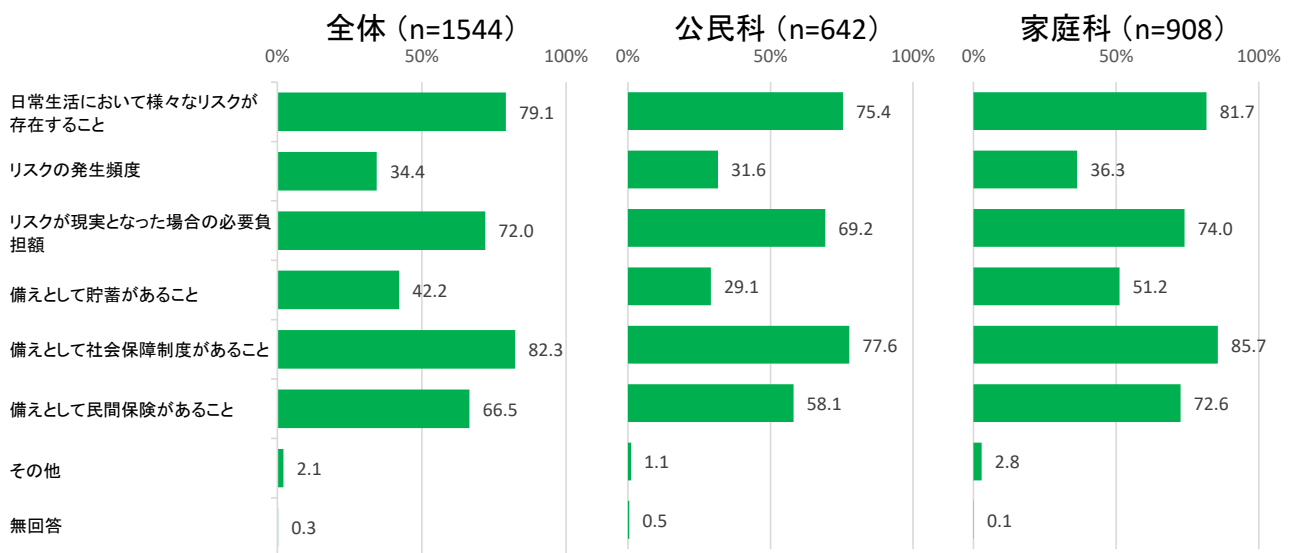
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な授業内容をたずねたところ、「備えとして社会保障制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること」が 82.3%と最も高く、次いで「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 79.1%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「備えとして社会保障制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること」、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」、「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」が必要な授業内容の上位3つとなっている。一方で「備えとして貯蓄があること」は、公民科は 29.1%に対し、家庭科では 51.2%となっており、22.1%の差がみられた。

図表 27. 「生活におけるリスク」に関する教育について、今後必要だと考える授業の内容 <複数回答>



	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)	備えとして貯蓄があること	備えとして社会保障制度(国民年金、健康保険、労災保険など)があること	備えとして民間保険(生命保険や損害保険など)があること	その他	無回答	
全体	1544	79.1	34.4	72.0	42.2	82.3	66.5	2.1	0.3	
担当教科・科目	公民科	642	75.4	31.6	69.2	29.1	77.6	58.1	1.1	0.5
	公民科(現代社会)	557	75.0	31.4	68.9	28.5	76.5	58.2	0.9	0.5
	公民科(政治・経済)	351	75.8	33.9	67.2	29.3	77.5	55.8	1.4	0.6
	家庭科	908	81.7	36.3	74.0	51.2	85.7	72.6	2.8	0.1
	家庭科(家庭基礎)	719	80.1	36.3	74.7	51.0	85.0	71.3	3.3	-
	家庭科(家庭総合)	253	87.4	36.0	73.9	54.5	89.7	77.9	1.6	0.4
家庭科(生活デザイン)	16	75.0	18.8	81.3	37.5	93.8	81.3	6.3	-	

問 8-4. 「生活におけるリスク」に関する教育が必要ではないと考える理由をお聞かせください。

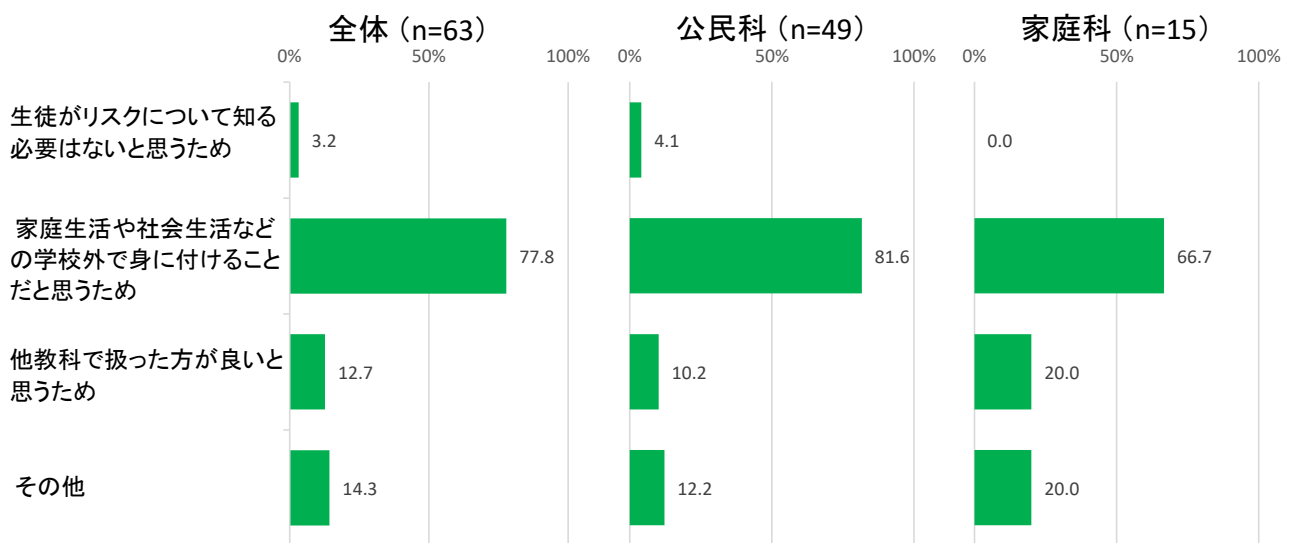
(1) 全体

「生活におけるリスク」教育が「あまり必要でない」、「必要でない」と回答した高等学校に対し、必要ではない理由をたずねたところ、サンプル数が少なく参考値となるが、「家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため」が 77.8%と最も高い。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため」が最も高く、公民科では 81.6%、家庭科では 66.7%となっており公民科の方が家庭科よりも割合が高い。

図表 28. 「生活におけるリスク」に関する教育が必要ではないと考える理由 <複数回答>



		n数	生徒がリスクについて知る必要はないと思うため	家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため	他教科で扱った方が良いと思うため	その他
全 体		63	3.2	77.8	12.7	14.3
担当教科・科目	公民科	49	4.1	81.6	10.2	12.2
	公民科(現代社会)	43	4.7	81.4	11.6	11.6
	公民科(政治・経済)	21	-	81.0	9.5	14.3
	家庭科	15	-	66.7	20.0	20.0
	家庭科(家庭基礎)	13	-	61.5	23.1	23.1
	家庭科(家庭総合)	2	-	100.0	-	-
家庭科(生活デザイン)	-	-	-	-	-	

問 9. 今後「生活におけるリスク」に関する教育の浸透に向けて、どのような取組みが重要だとお考えですか。

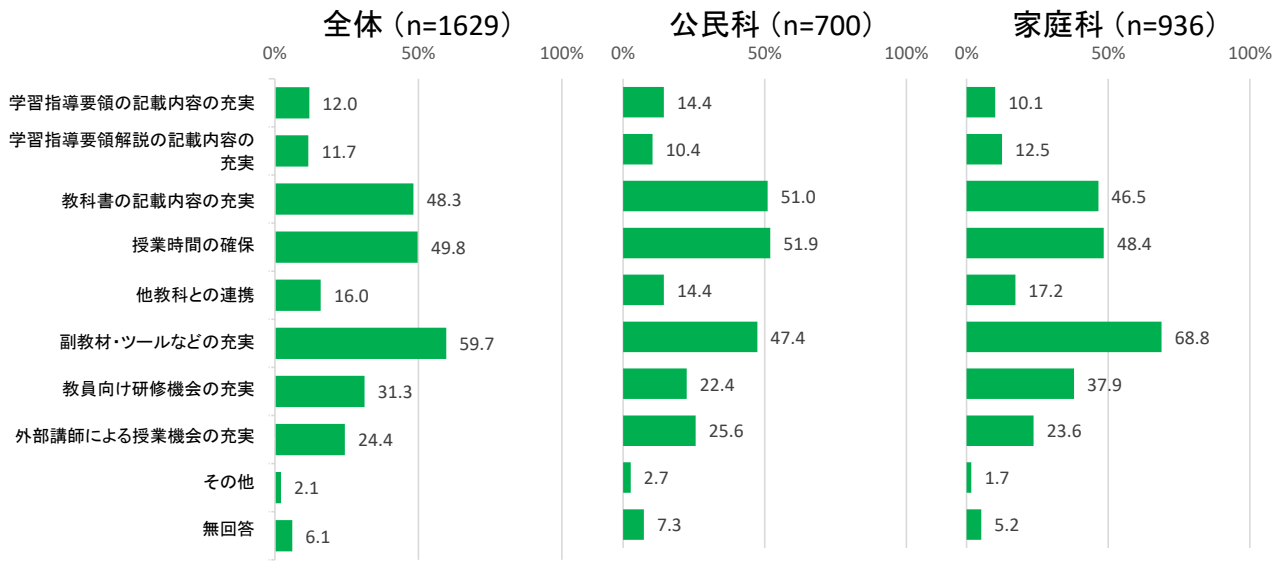
(1) 全体

今後の「生活におけるリスク」教育の浸透に向けてどのような取組みが重要かをたずねたところ、「副教材・ツールなどの充実」が 59.7%と最も高く、次いで「授業時間の確保」が 49.8%、「教科書の記載内容の充実」が 48.3%となっている。

(2) 担当教科・科目

各教科で共通して、重要だと考える取組みとして「副教材・ツールなどの充実」、「授業時間の確保」、「教科書の記載内容の充実」が上位 3 つに挙げられている。教科別でみると、公民科は「授業時間の確保」(51.9%)が最も高く、家庭科は「副教材・ツールなどの充実」(68.8%)が最も高い。

図表 29. 今後の「生活におけるリスク」に関する教育の浸透に向けての重要な取組み <複数回答>



	n数	学習指導要領の記載内容の充実	学習指導要領解説の記載内容の充実	教科書の記載内容の充実	授業時間の確保	他教科との連携	副教材・ツールなどの充実	教員向け研修機会の充実	外部講師による授業機会の充実	その他	無回答	
全体	1629	12.0	11.7	48.3	49.8	16.0	59.7	31.3	24.4	2.1	6.1	
担当教科・科目	公民科	700	14.4	10.4	51.0	51.9	14.4	47.4	22.4	25.6	2.7	7.3
	公民科(現代社会)	607	14.5	10.9	51.6	52.2	14.2	47.0	22.6	25.2	3.0	7.2
	公民科(政治・経済)	380	13.7	11.1	50.5	53.4	13.7	44.7	22.6	24.5	2.6	8.7
	家庭科	936	10.1	12.5	46.5	48.4	17.2	68.8	37.9	23.6	1.7	5.2
	家庭科(家庭基礎)	745	10.6	12.2	46.0	51.0	17.7	67.4	38.0	23.1	1.7	5.2
	家庭科(家庭総合)	257	8.6	13.6	51.0	42.4	17.5	75.9	36.6	24.9	1.6	5.8
家庭科(生活デザイン)	16	6.3	6.3	31.3	43.8	18.8	62.5	37.5	25.0	-	-	

4. 損害保険に関する教育*3の実施状況について

*3 本調査における損害保険に関する教育・授業とは、「生活におけるリスク」への経済的な備えとして損害保険があることやその損害保険の内容について教育または授業を行うことを指す。

問 10. 損害保険に関する教育を実施していますか。

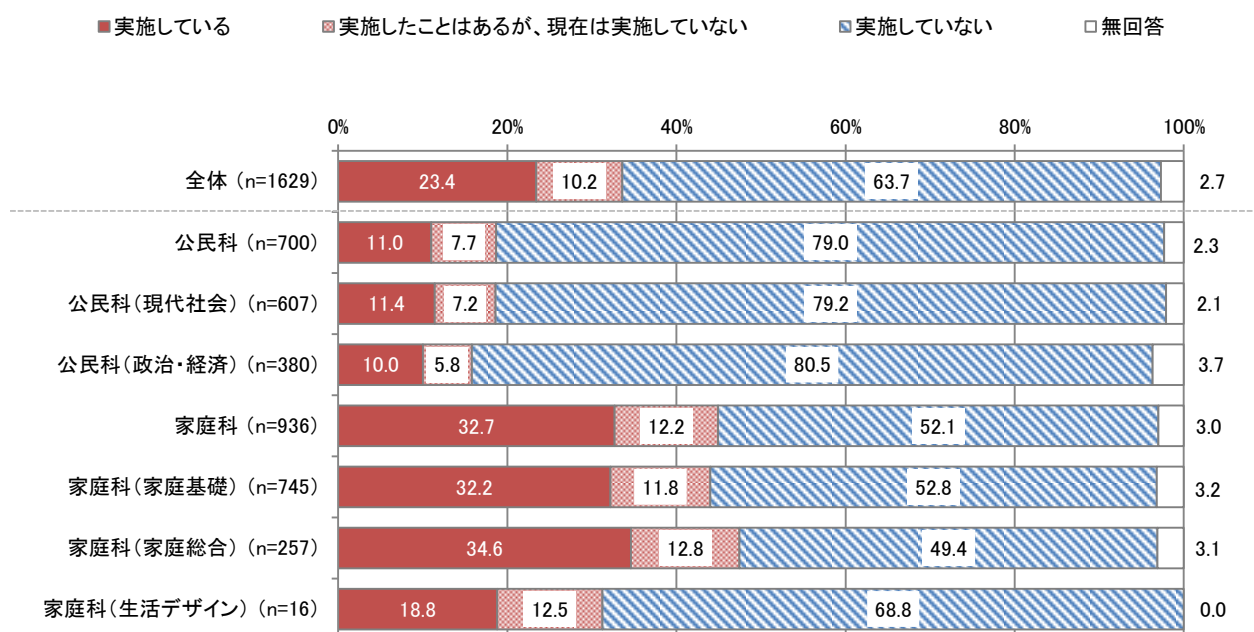
(1) 全体

全体では、損害保険に関する教育を「実施していない」が 63.7%と最も高い。「実施したことはあるが、現在は実施していない」(10.2%)を含めると、7割以上(73.9%)が現在、損害保険に関する教育を実施していないという結果になっている。

(2) 担当教科・科目別

教科別にみると、現在、損害保険に関する教育を実施していない割合（「実施したことはあるが、現在は実施していない」+「実施していない」）は、公民科で 86.7%となっており、家庭科では 64.3%である。公民科は、家庭科よりも現在、損害保険に関する教育を実施していない割合が高い。

図表 30. 損害保険に関する教育の実施有無 <単一回答>



問 10-1. 損害保険に関する授業はどのような内容ですか。

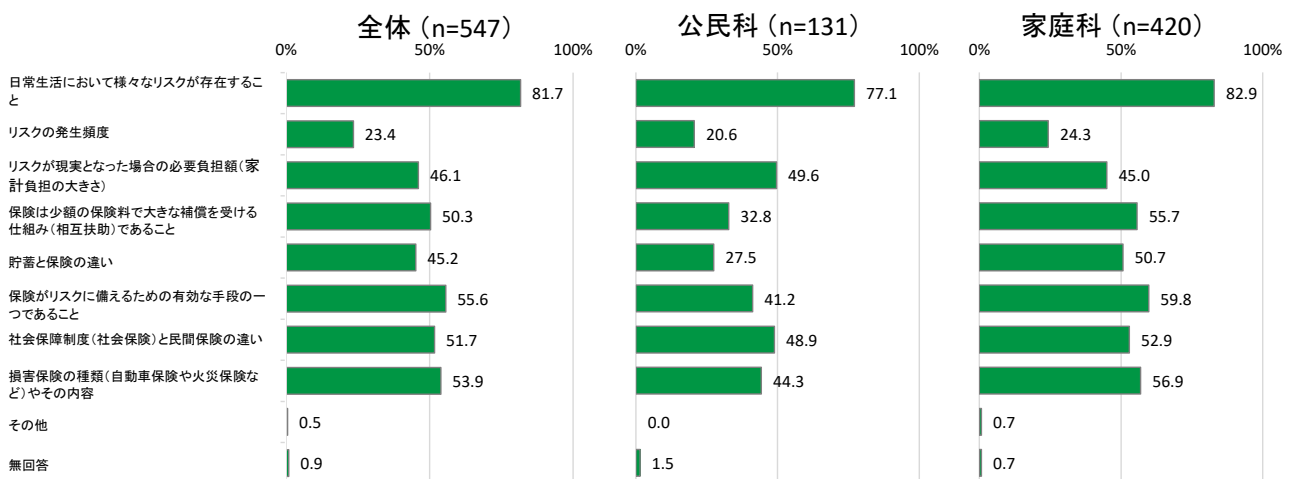
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、授業内容についてたずねたところ、全体では、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 81.7%と最も高く、次いで「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」が 55.6%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で比較すると、「貯蓄と保険の違い」が公民科の 27.5%に対し、家庭科では 50.7%となっており、家庭科の方が高く、また「保険は少額の保険料で大きな補償を受ける仕組み(相互扶助)であること」は公民科が 32.8%、家庭科が 55.7%で家庭科の方が高い。教科によって、実施している授業内容の違いがあることがうかがえる。

図表 31. 損害保険に関する授業の内容 <複数回答>



担当教科・科目	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)	保険は少額の保険料で大きな補償を受ける仕組み(相互扶助)であること	貯蓄と保険の違い	保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること	社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い	損害保険の種類(自動車保険や火災保険など)やその内容	その他	無回答	
全体	547	81.7	23.4	46.1	50.3	45.2	55.6	51.7	53.9	0.5	0.9	
公民科	公民科	131	77.1	20.6	49.6	32.8	27.5	41.2	44.3		1.5	
	公民科(現代社会)	113	78.8	22.1	49.6	33.6	29.2	44.2	46.9		1.8	
	公民科(政治・経済)	60	73.3	21.7	53.3	38.3	28.3	40.0	43.3		1.7	
	家庭科	420	82.9	24.3	45.0	55.7	50.7	59.8	52.9	56.9	0.7	0.7
	家庭科(家庭基礎)	328	83.5	23.5	45.1	56.1	50.9	58.8	53.4	57.0	0.9	0.9
	家庭科(家庭総合)	122	79.5	22.1	45.1	53.3	50.0	61.5	52.5	58.2	0.8	-
家庭科(生活デザイン)	5	80.0	20.0	40.0	60.0	60.0	20.0	60.0	40.0	-	-	

問 10-2. 現在、損害保険に関する年間の実施授業時間はどの程度ですか。学年ごとにご回答ください。

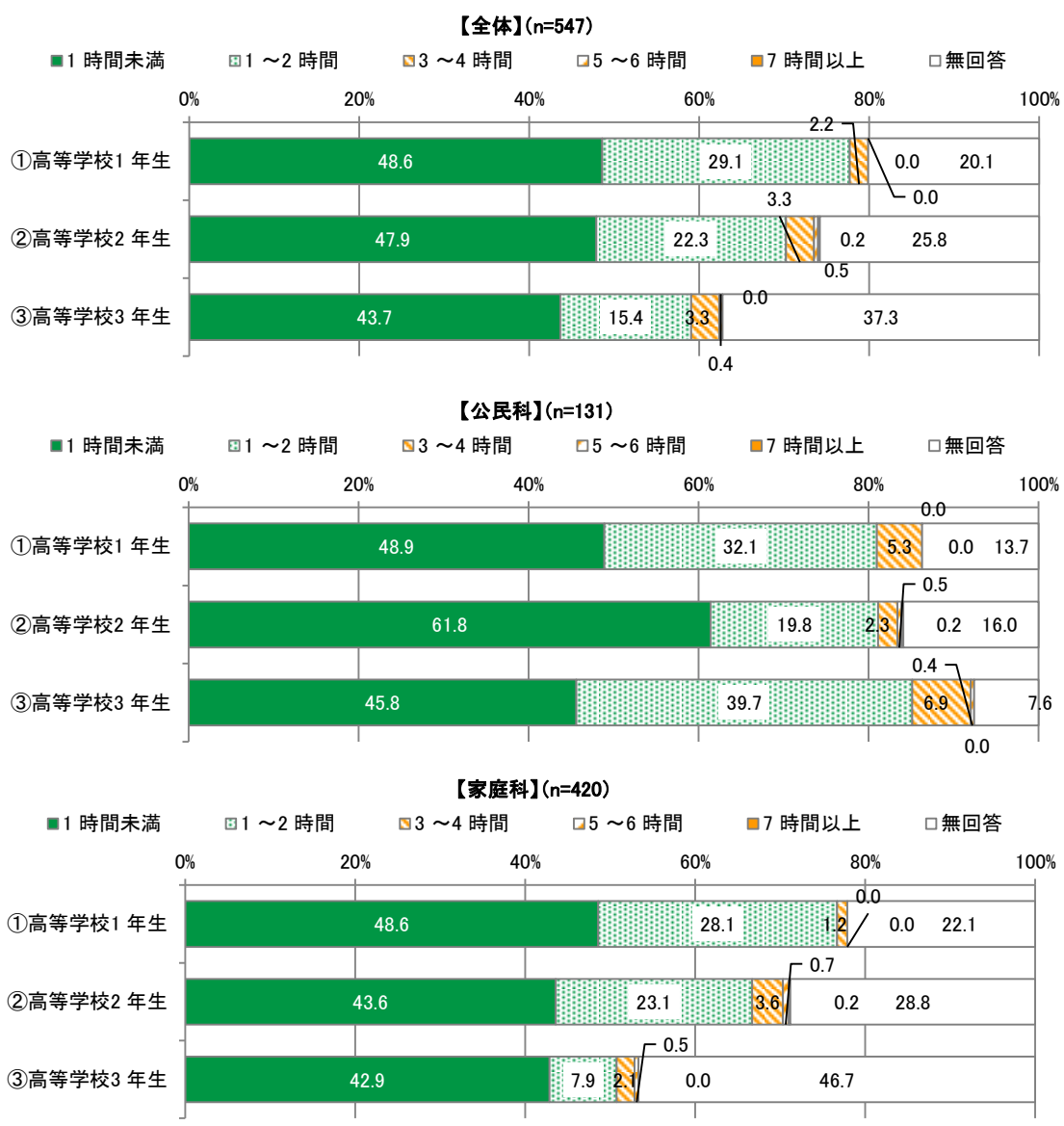
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、年間の授業時間をたずねたところ、高等学校1年生～高等学校3年生の各学年で「1時間未満」が最も高く、4割以上(高等学校1年生:48.6%、高等学校2年生:47.9%、高等学校3年生:43.7%)である。

(2) 担当教科・科目別

公民科では高等学校3年生の「1～2時間」(39.7%)、「3～4時間」(6.9%)が他学年と比較して割合が高く、家庭科では高等学校1年生の「1～2時間」(28.1%)が他学年と比較して割合が高い。

図表 32. 損害保険に関する各学年の年間の実施授業時間 <単一回答>



問 10-3. 損害保険に関する授業を実施している場合、どの単元で実施していますか。

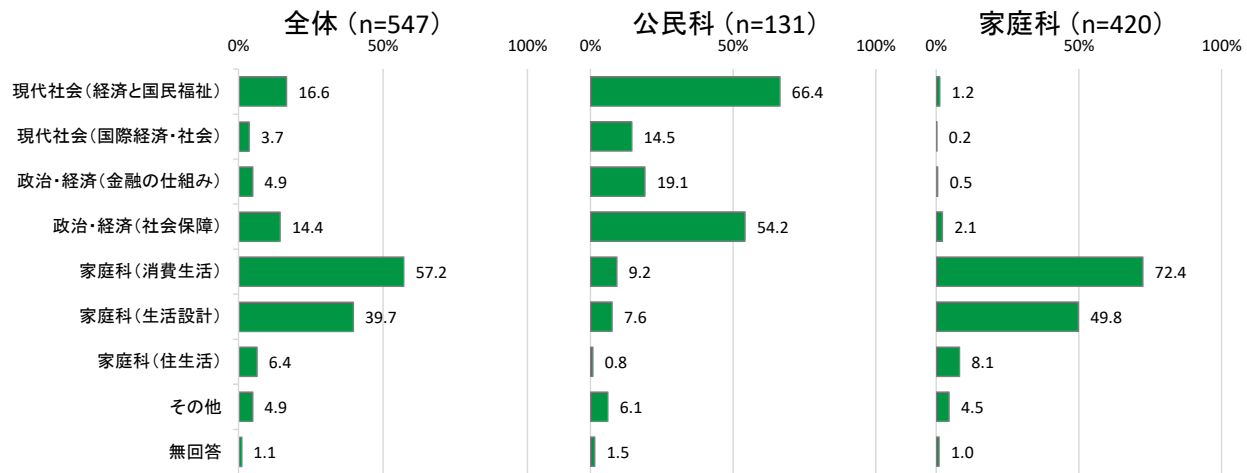
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、どの単元で授業を実施しているかたずねたところ、「家庭科(消費生活)」が 57.2%と最も高く、次いで「家庭科(生活設計)」が 39.7%となっている。

(2) 担当教科・科目別

公民科は、「現代社会(経済と国民福祉)」、「政治・経済(社会保障)」で損害保険に関する授業を実施している割合が高く、家庭科は「家庭科(消費生活)」、「家庭科(生活設計)」で損害保険に関する授業を実施している割合が高い。

図表 33. 損害保険に関する授業を実施している単元 <複数回答>



		n数	現代社会 (経済と国民福祉)	現代社会 (国際経済・社会)	政治・経済 (金融の仕組み)	政治・経済 (社会保障)	家庭科(消費生活)	家庭科(生活設計)	家庭科(住生活)	その他	無回答
全体		547	16.6	3.7	4.9	14.4	57.2	39.7	6.4	4.9	1.1
担当教科・科目	公民科	131	66.4	14.5	19.1	54.2	9.2	7.6	0.8	6.1	1.5
	公民科(現代社会)	113	69.9	15.9	19.5	50.4	10.6	8.8	0.9	7.1	1.8
	公民科(政治・経済)	60	56.7	13.3	28.3	78.3	11.7	6.7	1.7	3.3	1.7
	家庭科	420	1.2	0.2	0.5	2.1	72.4	49.8	8.1	4.5	1.0
	家庭科(家庭基礎)	328	0.9	-	0.3	1.2	72.6	48.8	7.9	4.9	1.2
	家庭科(家庭総合)	122	2.5	0.8	0.8	4.9	74.6	51.6	10.7	2.5	-
家庭科(生活デザイン)	5	-	-	-	-	60.0	80.0	-	-	-	

問 11. 授業で取り上げた損害保険に関する授業の内容について、生徒は関心を持っていましたか。

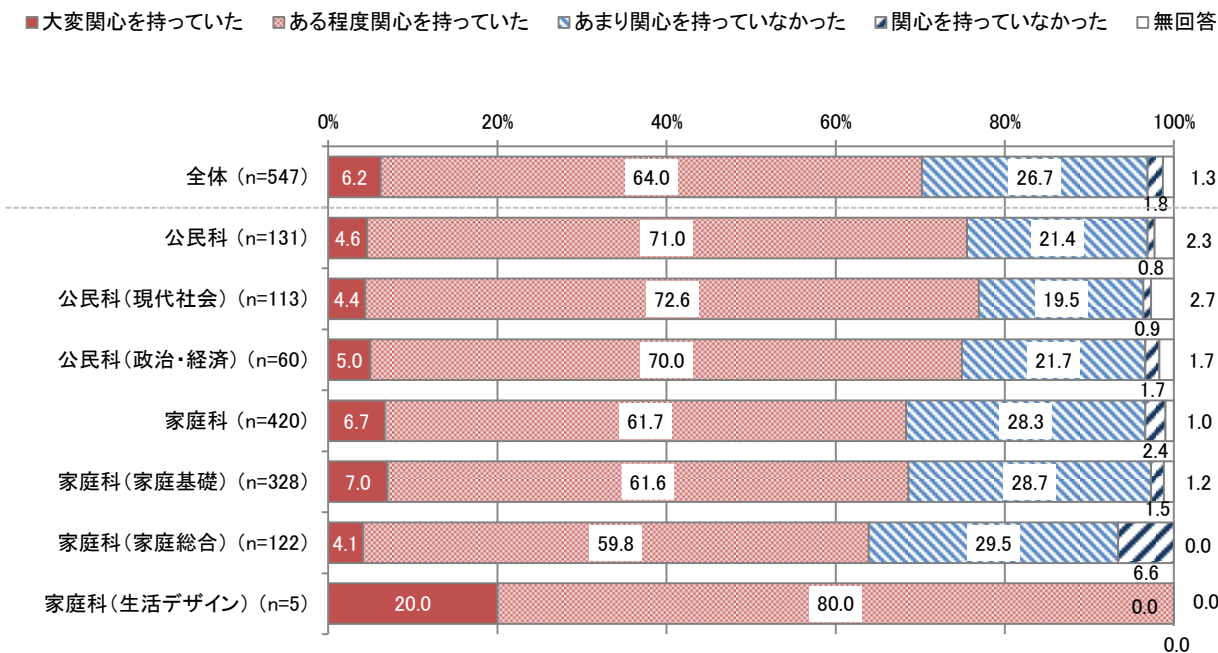
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、生徒の関心度合いをたずねたところ、「ある程度関心を持っていた」が 64.0%と最も高く、「大変関心を持っていた」(6.2%)を含めると、損害保険に関する教育に関心を持っていた割合は 7 割(70.2%)を占めている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「ある程度関心を持っていた」が最も高く、公民科では損害保険に関する教育の授業内容に関心を持っていた割合(「大変関心を持っていた」+「ある程度関心を持っていた」)が 75.6%(4.6%+71.0%)であるのに対し、家庭科は 68.4%(6.7%+61.7%)であり、公民科は家庭科よりも生徒が損害保険に関する教育の授業内容に関心を持っていた割合が高い。

図表 34. 損害保険に関する授業の内容における生徒の関心度 <単一回答>



問 11-1. 生徒たちが関心を持っていたのはどんなことですか。

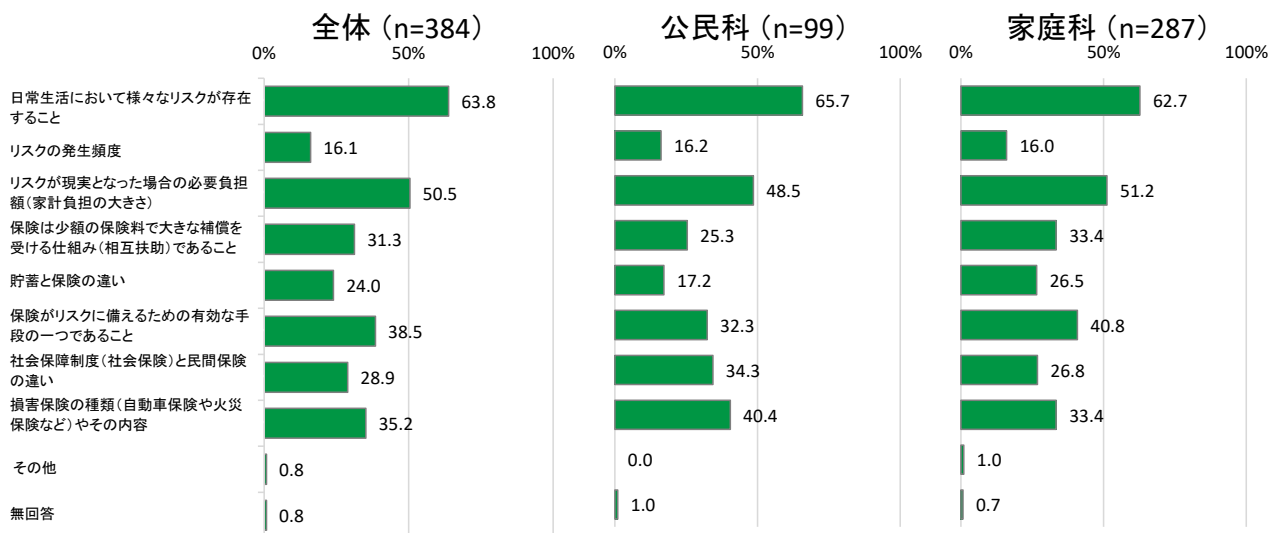
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがあり、生徒が授業内容に関心があると回答した高等学校に対し、関心のあった授業内容をたずねたところ、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が 63.8%と最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」が 50.5%であった。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」、「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」の 2 項目の割合が上位 2 つという結果となっている。次いで、公民科では「損害保険の種類(自動車保険や火災保険など)やその内容」(40.4%)であるのに対し、家庭科では「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」(40.8%)が関心の高い内容として挙げられており、教科によって違いがみられた。

図表 35. 生徒が関心を持っていた授業内容 <複数回答>



担当教科・科目	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)	保険は少額の保険料で大きな補償を受ける仕組み(相互扶助)であること	貯蓄と保険の違い	保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること	社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い	損害保険の種類(自動車保険や火災保険など)やその内容	その他	無回答	
全体	384	63.8	16.1	50.5	31.3	24.0	38.5	28.9	35.2	0.8	0.8	
担当教科・科目	公民科	99	65.7	16.2	48.5	25.3	17.2	32.3	34.3	40.4	-	1.0
	公民科(現代社会)	87	66.7	18.4	50.6	26.4	18.4	33.3	34.5	42.5	-	1.1
	公民科(政治・経済)	45	68.9	13.3	37.8	28.9	20.0	48.9	35.6	37.8	-	-
	家庭科	287	62.7	16.0	51.2	33.4	26.5	40.8	26.8	33.4	1.0	0.7
	家庭科(家庭基礎)	225	60.9	15.6	50.7	34.7	29.3	40.0	25.8	34.2	1.3	0.4
	家庭科(家庭総合)	78	69.2	15.4	57.7	29.5	23.1	41.0	33.3	34.6	-	1.3
家庭科(生活デザイン)	5	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0	-	-	

問 11-2. 生徒たちの関心があまりない要因はどこにあると思いますか。

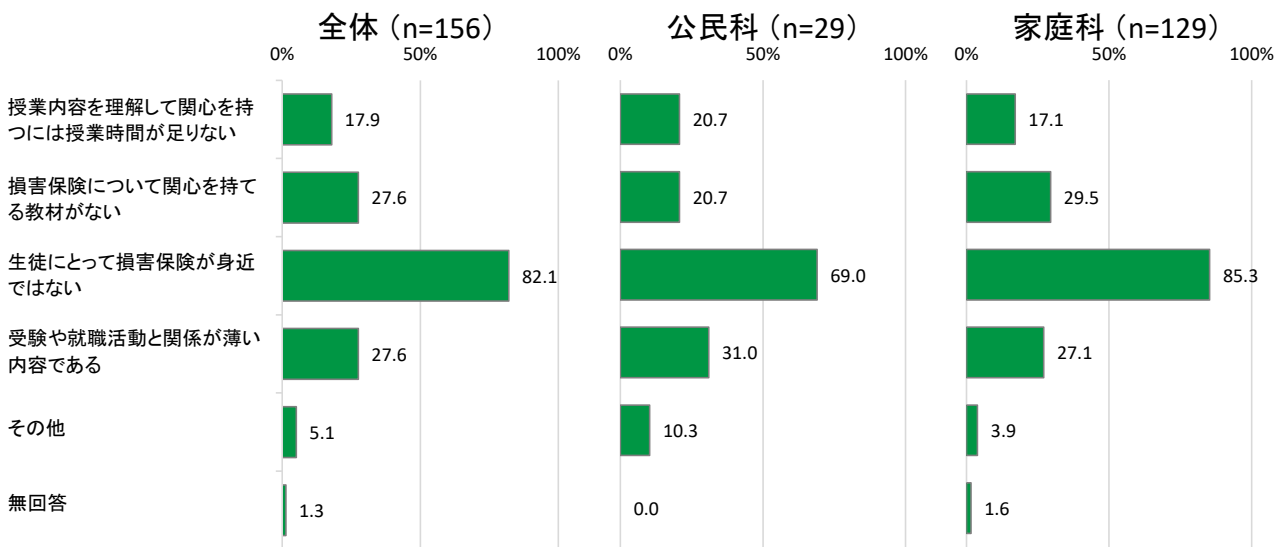
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがあるが、生徒が授業内容に関心がないと回答した高等学校に対し、関心のない要因をたずねたところ、「生徒にとって損害保険が身近ではない」が 82.1%と最も高く、次いで、「損害保険について関心を持てる教材がない」が 27.6%、「受験や就職活動と関係が薄い内容である」が 27.6%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「生徒にとって損害保険が身近ではない」が最も高い。

図表 36. 生徒が授業内容に関心のない要因 <複数回答>



		n数	授業内容を理解して関心を持つには授業時間が足りない	損害保険について関心を持てる教材がない	生徒にとって損害保険が身近ではない	受験や就職活動と関係が薄い内容である	その他	無回答
全体		156	17.9	27.6	82.1	27.6	5.1	1.3
担当教科・科目	公民科	29	20.7	20.7	69.0	31.0	10.3	-
	公民科(現代社会)	23	21.7	26.1	69.6	34.8	8.7	-
	公民科(政治・経済)	14	14.3	14.3	64.3	35.7	14.3	-
	家庭科	129	17.1	29.5	85.3	27.1	3.9	1.6
	家庭科(家庭基礎)	99	18.2	29.3	86.9	28.3	4.0	-
	家庭科(家庭総合)	44	11.4	29.5	84.1	25.0	4.5	4.5
家庭科(生活デザイン)	-	-	-	-	-	-	-	-

問 12. 損害保険に関する授業を実施する際に課題と感ずることはありますか。

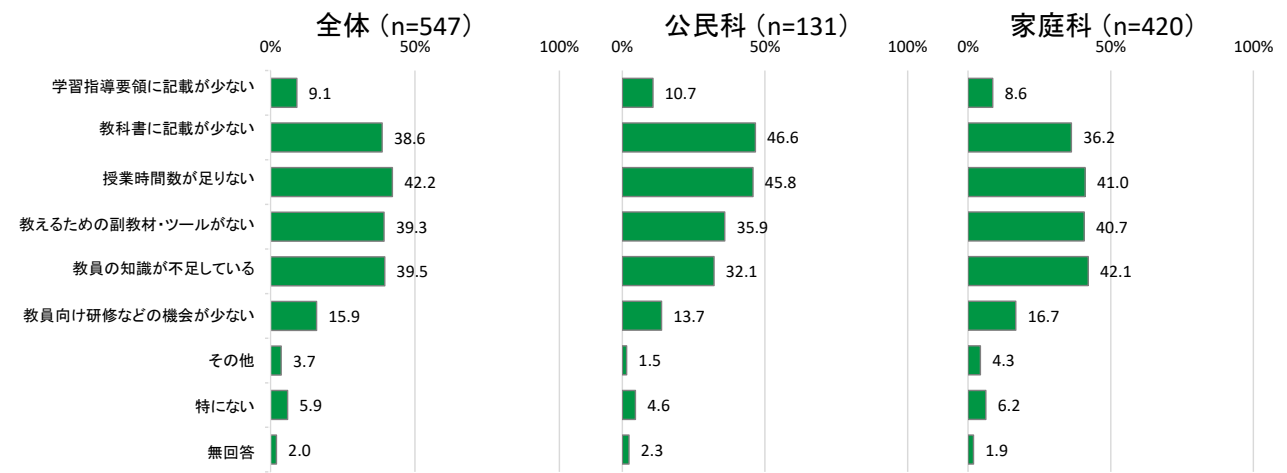
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、授業を実施する際の課題をたずねたところ、「授業時間数が足りない」が 42.2%と最も高く、次いで「教員の知識が不足している」、「教えるための副教材・ツールがない」、「教科書に記載が少ない」がいずれも 4 割近い回答(39.5%、39.3%、38.6%)となっている。

(2) 担当教科・科目別

公民科では、授業を行う際の課題は「教科書に記載が少ない」が 46.6%と最も高く、家庭科では「教員の知識が不足している」が 42.1%と最も高い。次いで公民科、家庭科共通して「授業時間数が足りない」となっている。

図表 37. 損害保険に関する授業を実施する際の課題 <複数回答>



		n数	学習指導要領に記載が少ない	教科書に記載が少ない	授業時間数が足りない	教えるための副教材・ツールがない	教員の知識が不足している	教員向け研修などの機会が少ない	その他	特になし	無回答
全体		547	9.1	38.6	42.2	39.3	39.5	15.9	3.7	5.9	2
担当教科・科目	公民科	131	10.7	46.6	45.8	35.9	32.1	13.7	1.5	4.6	2.3
	公民科(現代社会)	113	12.4	47.8	48.7	33.6	31.0	14.2	1.8	3.5	2.7
	公民科(政治・経済)	60	18.3	46.7	48.3	33.3	30.0	16.7	-	8.3	1.7
	家庭科	420	8.6	36.2	41.0	40.7	42.1	16.7	4.3	6.2	1.9
	家庭科(家庭基礎)	328	10.1	37.2	44.8	41.8	39.0	16.5	3.7	6.7	1.5
	家庭科(家庭総合)	122	5.7	34.4	31.1	44.3	49.2	17.2	4.9	6.6	2.5
家庭科(生活デザイン)	5	-	40.0	40.0	60.0	60.0	-	-	-	-	

問 13. 教科書は、損害保険に関する授業を行うにあたって十分な内容が記載されていると思いますか。

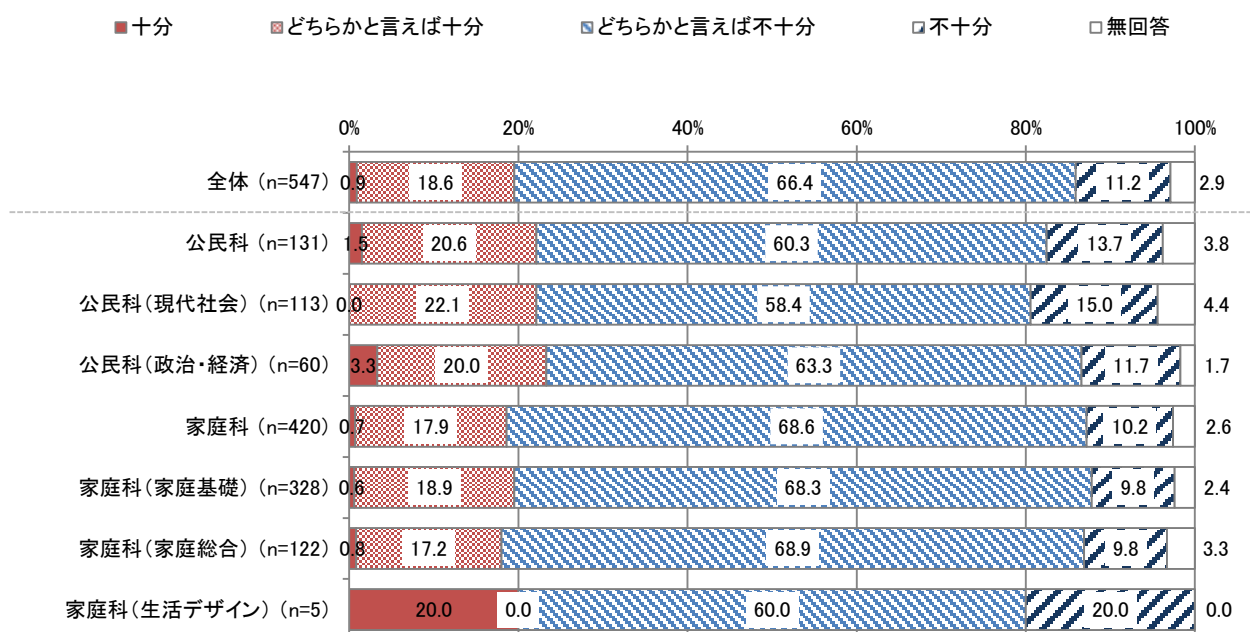
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、教科書に十分な内容が記載されているかたずねたところ、「どちらかと言えば不十分」が 66.4%と最も高く、「不十分」(11.2%)を含めると、7 割(77.6%)が、損害保険に関する授業に対する教科書の内容が不十分だと感じている。

(2) 担当教科・科目別

教科書の記載内容が不十分(「どちらかと言えば不十分」+「不十分」)だと感じている割合が公民科で 74.0%、家庭科で 78.8%となっており、各教科で共通して、7 割以上が教科書の記載内容が不十分だと感じている。

図表 38. 損害保険に関する授業で用いる教科書の内容 <単一回答>



問 14. 損害保険に関する教育の実施にあたって教科書以外に利用しているものはありますか。

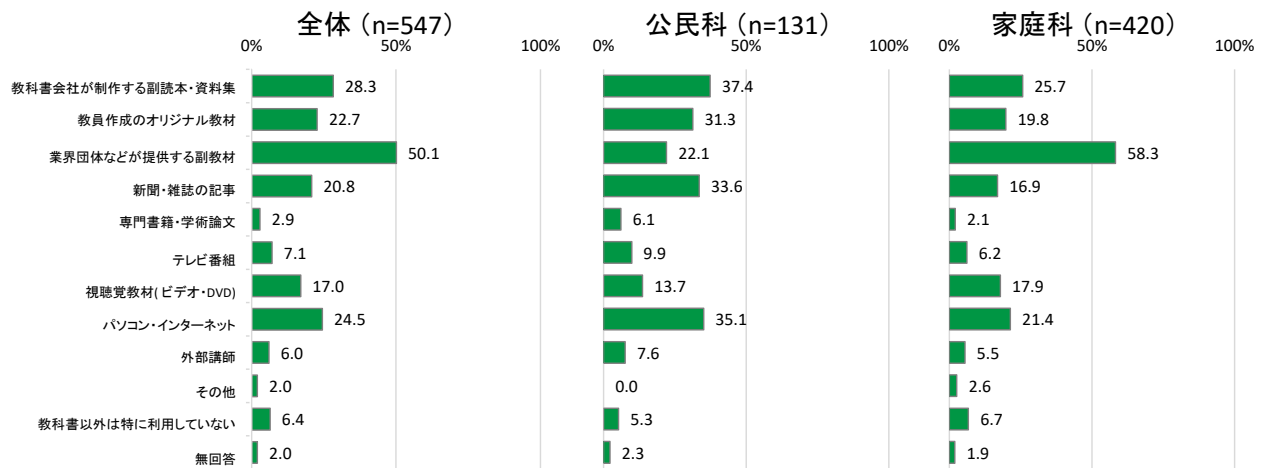
(1) 全体

損害保険に関する教育を実施したことがある高等学校に対し、教科書以外に利用している教材をたずねたところ、「業界団体などが提供する副教材」が 50.1%と最も高く、次いで「教科書会社が制作する副読本・資料集」が 28.3%となっている。

(2) 担当教科・科目別

教科別にみても、公民科は「パソコン・インターネット」(35.1%)、「新聞・雑誌の記事」(33.6%)が家庭科と比較して高く、一方で家庭科は「業界団体などが提供する副教材」(58.3%)の割合が最も高く、公民科(22.1%)と比較しても高い。教科書以外に利用している教材・資料等は教科によって違いがあると考えられる。

図表 39. 損害保険に関する教育での教科書以外に利用しているもの <複数回答>



担当教科・科目	n数	教科書会社が制作する副読本・資料集	教員作成のオリジナル教材	業界団体などが提供する副教材	新聞・雑誌の記事	専門書籍・学術論文	テレビ番組	視聴覚教材(ビデオ・DVD)	パソコン・インターネット	外部講師	その他	教科書以外は特に利用していない	無回答	
全体	547	28.3	22.7	50.1	20.8	2.9	7.1	17.0	24.5	6.0	2.0	6.4	2.0	
公民科	公民科	131	37.4	31.3	22.1	33.6	6.1	9.9	13.7	35.1	7.6	-	5.3	2.3
	公民科(現代社会)	113	35.4	31.9	24.8	34.5	7.1	9.7	14.2	36.3	7.1	-	5.3	2.7
	公民科(政治・経済)	60	43.3	33.3	16.7	36.7	3.3	8.3	13.3	35.0	5.0	-	3.3	1.7
	家庭科	420	25.7	19.8	58.3	16.9	2.1	6.2	17.9	21.4	5.5	2.6	6.7	1.9
	家庭科(家庭基礎)	328	25.6	20.4	58.5	17.1	1.8	5.2	16.2	22.6	4.9	2.4	7.3	1.8
	家庭科(家庭総合)	122	27.9	18.0	59.8	18.0	3.3	9.8	21.3	19.7	5.7	2.5	4.1	1.6
家庭科(生活デザイン)	5	40.0	40.0	40.0	-	-	-	20.0	40.0	-	-	-	-	

問 15. 損害保険に関する教育を現在実施していない、または実施したことがない理由をお聞かせください。

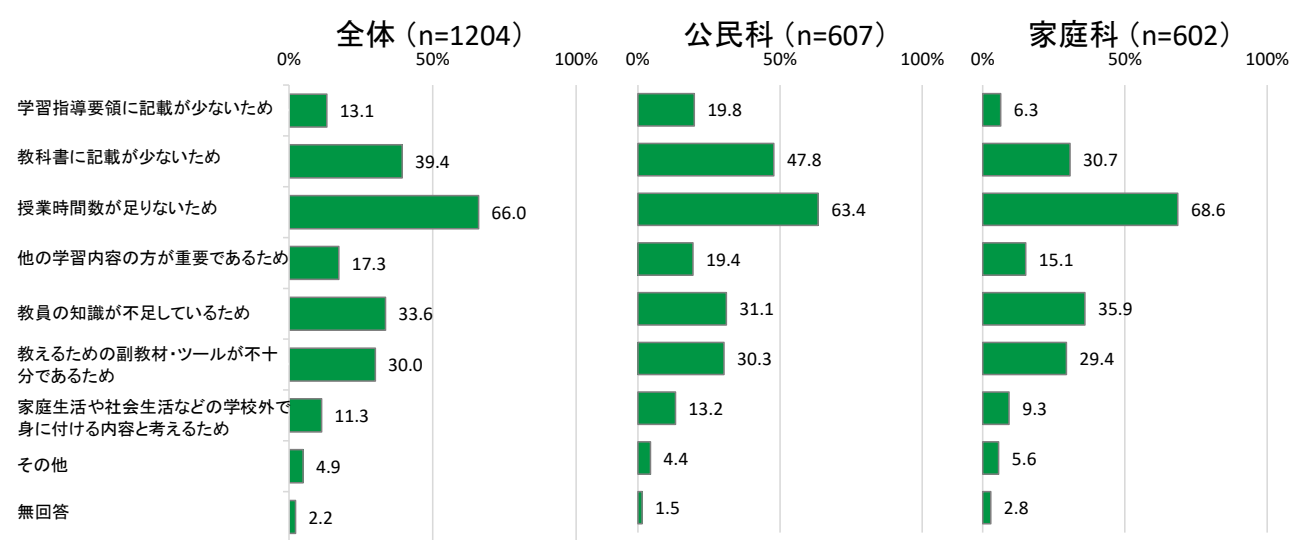
(1) 全体

損害保険に関する教育を現在実施していない高等学校に対し、実施していない理由をたずねたところ、「授業時間数が足りないため」が 66.0%と最も高く、次いで「教科書に記載が少ないため」が 39.4%、「教員の知識が不足しているため」が 33.6%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「授業時間数が足りないため」が最も高く、次いで公民科では、「教科書に記載が少ないため」(47.8%)、家庭科では「教員の知識が不足しているため」(35.9%)となっている。「学習指導要領に記載が少ないため」について、公民科(19.8%)と家庭科(6.3%)を比較した場合、割合の差が最も大きい。

図表 40. 損害保険に関する教育を現在実施していない、または実施したことがない理由 <複数回答>



	n数	学習指導要領に記載が少ないため	教科書に記載が少ないため	授業時間数が足りないため	他の学習内容の方が重要であるため	教員の知識が不足しているため	教えるための副教材・ツールが不十分であるため	家庭生活や社会生活などの学校外で身に付ける内容と考えるため	その他	無回答	
全体	1204	13.1	39.4	66.0	17.3	33.6	30.0	11.3	4.9	2.2	
担当教科・科目	公民科	607	19.8	47.8	63.4	19.4	31.1	30.3	13.2	4.4	1.5
	公民科(現代社会)	525	20.0	48.6	64.2	19.2	30.5	30.3	13.5	4.8	1.7
	公民科(政治・経済)	328	19.8	46.3	64.9	22.9	30.2	28.0	12.8	4.3	1.2
	家庭科	602	6.3	30.7	68.6	15.1	35.9	29.4	9.3	5.6	2.8
	家庭科(家庭基礎)	481	6.4	30.8	69.6	15.4	35.1	28.1	8.9	6.0	2.9
	家庭科(家庭総合)	160	6.9	33.1	65.0	15.0	38.8	35.6	11.9	4.4	2.5
	家庭科(生活デザイン)	13	7.7	61.5	61.5	7.7	23.1	15.4	15.4	-	7.7

5. 今後の損害保険に関する教育について

問 16. 学校で損害保険に関する教育を行うことについてどのようにお考えですか。

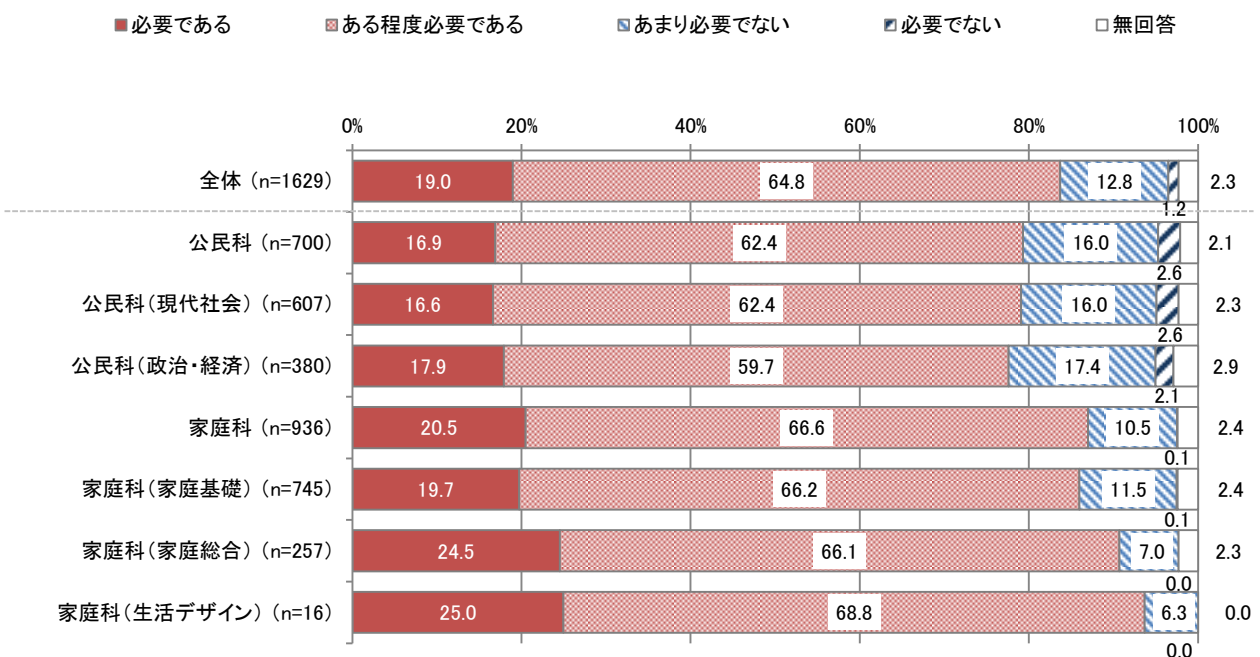
(1) 全体

全体では、損害保険に関する教育について、「ある程度必要である」が 64.8%と最も高く、「必要である」(19.0%)を含めると、8割(83.8%)が損害保険に関する教育が必要であると考えている。

(2) 担当教科・科目別

教科別にみても、損害保険に関する教育が必要である(「必要である」+「ある程度必要である」)と考えている割合は公民科では 79.3%、家庭科では 87.1%となっており、家庭科は公民科よりも学校で損害保険に関する教育を行うことは必要であると考えている割合が高い。

図表 41. 学校で損害保険に関する教育を行うことの必要性 <単一回答>



問 16-1. 損害保険に関する教育が必要と考える理由をお聞かせください。

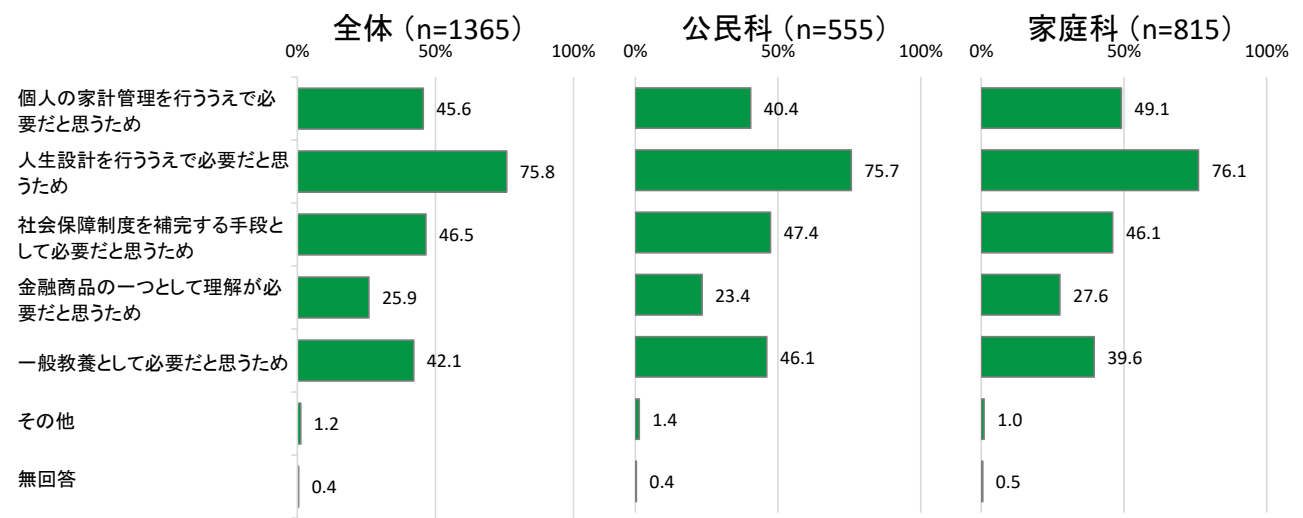
(1) 全体

損害保険に関する教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な理由をたずねたところ、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」が 75.8%と最も高く、次いで「社会保障制度を補完する手段として必要だと思うため」、「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」、「一般教養として必要だと思うため」がいずれも 4 割以上の回答 (46.5%、45.6%、42.1%) となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「人生設計を行ううえで必要だと思うため」が最も高い結果となっている。次いで、公民科は「社会保障制度を補完する手段として必要だと思うため」(47.4%)、家庭科は「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」(49.1%)となっている。「個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため」について、公民科は 40.4%、家庭科は 49.1%となっており、各教科で比較した場合、割合の差が最も大きい。

図表 42. 損害保険に関する教育が必要と考える理由 <複数回答>



		n数	個人の家計管理を行ううえで必要だと思うため	人生設計を行ううえで必要だと思うため	社会保障制度を補完する手段として必要だと思うため	金融商品の一つとして理解が必要だと思うため	一般教養として必要だと思うため	その他	無回答
全体		1365	45.6	75.8	46.5	25.9	42.1	1.2	0.4
担当教科・科目	公民科	555	40.4	75.7	47.4	23.4	46.1	1.4	0.4
	公民科(現代社会)	480	38.3	75.4	46.5	24.6	45.8	1.5	0.4
	公民科(政治・経済)	295	41.4	75.6	49.8	22.7	46.4	1.0	0.3
	家庭科	815	49.1	76.1	46.1	27.6	39.6	1.0	0.5
	家庭科(家庭基礎)	640	49.1	76.6	45.5	28.4	41.4	1.1	-
	家庭科(家庭総合)	233	51.1	78.1	48.1	24.0	38.2	0.4	1.3
家庭科(生活デザイン)	15	40.0	66.7	33.3	33.3	40.0	-	6.7	

問 16-2. 損害保険に関する教育について、年間の授業時間はどの程度必要だとお考えですか。

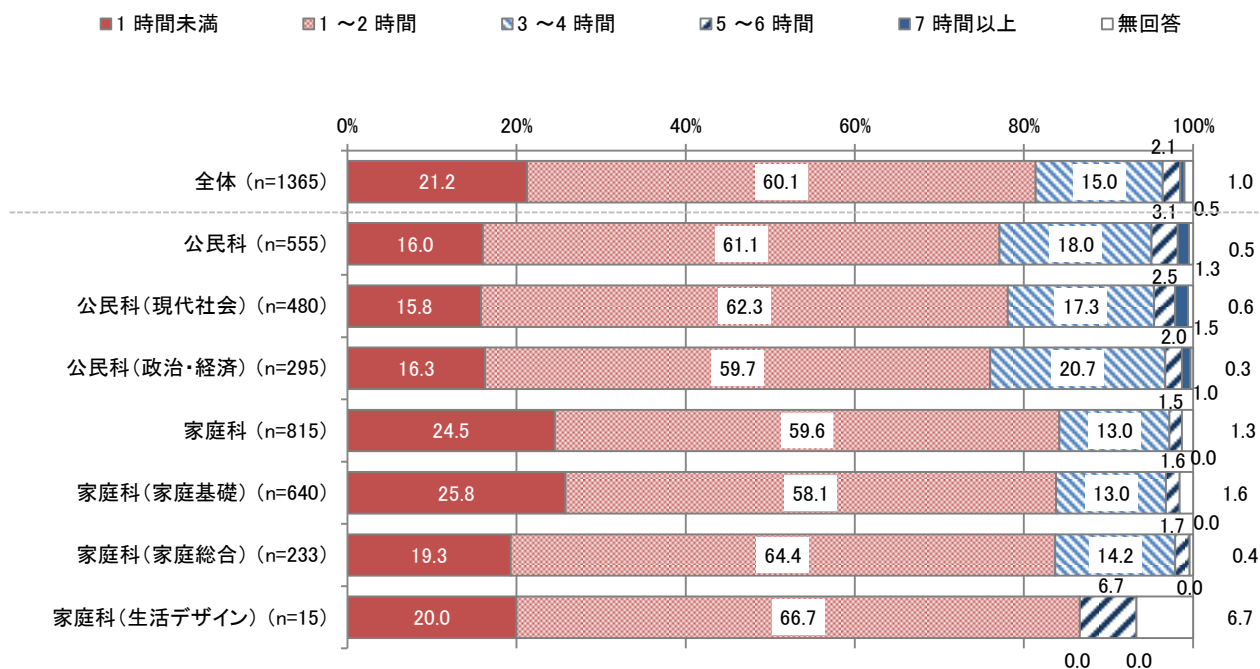
(1) 全体

損害保険に関する教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な授業時間数をたずねたところ、「1～2 時間」が 60.1%と最も高く、次いで「1 時間未満」が 21.2%となっており、8 割(81.3%)が 2 時間以内の授業時間が必要だと考えているという結果になった。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「1～2 時間」が最も高いという結果になっている。「1 時間未満」について、公民科が 16.0%に対し、家庭科は 24.5%となっており、家庭科の方が公民科よりも「1 時間未満」の授業時間が必要だと考えている割合が高い。

図表 43. 損害保険に関する教育の年間の授業時間数 <単一回答>



問 16-3. 損害保険に関する教育について、今後必要だと考える授業の内容についてお聞かせください。

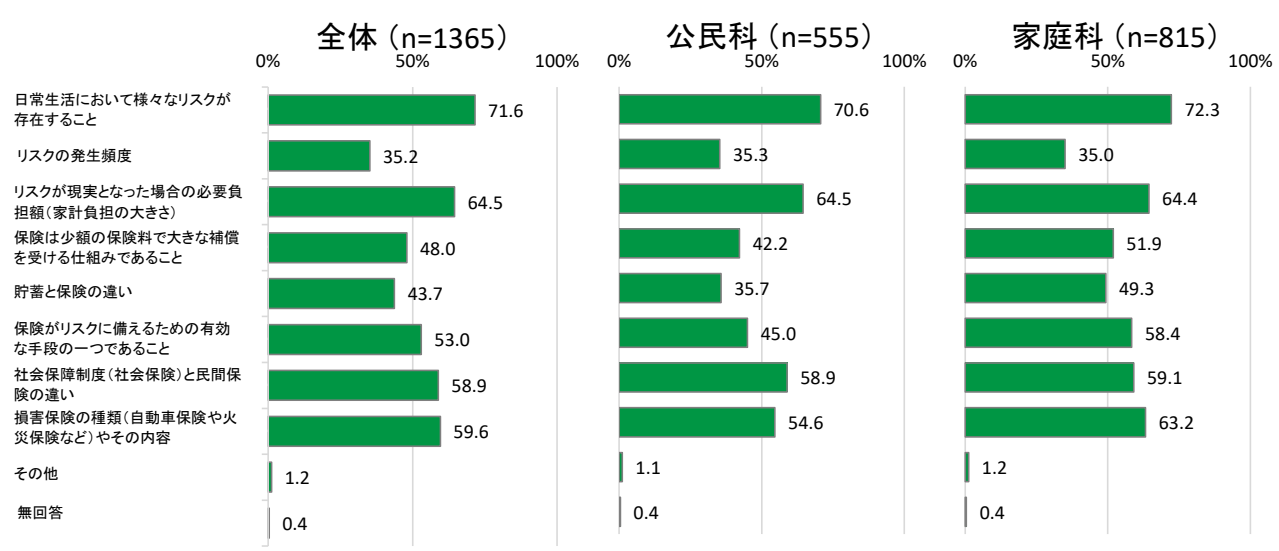
(1) 全体

損害保険に関する教育が「必要である」、「ある程度必要である」と回答した高等学校に対し、必要な授業内容をたずねたところ、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が71.6%と最も高く、次いで「リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)」が64.5%、「損害保険の種類(自動車保険や火災保険など)やその内容」が59.6%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「日常生活において様々なリスク(事故、火災、病気・ケガ、失業や災害または相手方への損害賠償など)が存在すること」が最も高いという結果になっている。「貯蓄と保険の違い」に関して、公民科は35.7%、家庭科では49.3%となっており、家庭科の方が授業内容として必要だと感じている割合が高い。「保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること」に関して、公民科は45.0%、家庭科では58.4%となっており、家庭科の方が公民科に比べて必要だと感じている割合が高い。

図表 44. 損害保険に関する教育について、今後必要だと考える授業の内容<複数回答>



担当教科・科目	n数	日常生活において様々なリスクが存在すること	リスクの発生頻度	リスクが現実となった場合の必要負担額(家計負担の大きさ)	保険は少額の保険料で大きな補償を受けられる仕組み(相互扶助)であること	貯蓄と保険の違い	保険がリスクに備えるための有効な手段の一つであること	社会保障制度(社会保険)と民間保険の違い	損害保険の種類(自動車保険や火災保険など)やその内容	その他	無回答	
全体	1365	71.6	35.2	64.5	48.0	43.7	53.0	58.9	59.6	1.2	0.4	
担当教科・科目	公民科	555	70.6	35.3	64.5	42.2	35.7	45.0	58.9	54.6	1.1	0.4
	公民科(現代社会)	480	70.4	36.0	64.0	41.9	35.8	45.4	57.7	53.8	0.8	0.4
	公民科(政治・経済)	295	71.2	38.0	66.8	43.4	35.9	45.1	60.7	51.9	0.7	0.3
	家庭科	815	72.3	35.0	64.4	51.9	49.3	58.4	59.1	63.2	1.2	0.4
	家庭科(家庭基礎)	640	70.6	35.3	65.2	52.0	48.0	58.0	58.9	62.2	1.3	0.2
	家庭科(家庭総合)	233	76.8	33.5	60.1	51.5	53.6	62.7	58.8	67.4	0.9	0.9
家庭科(生活デザイン)	15	60.0	20.0	66.7	60.0	53.3	66.7	80.0	60.0	-	-	

問 16-4. 損害保険に関する教育が必要ではないと考える理由をお聞かせください。

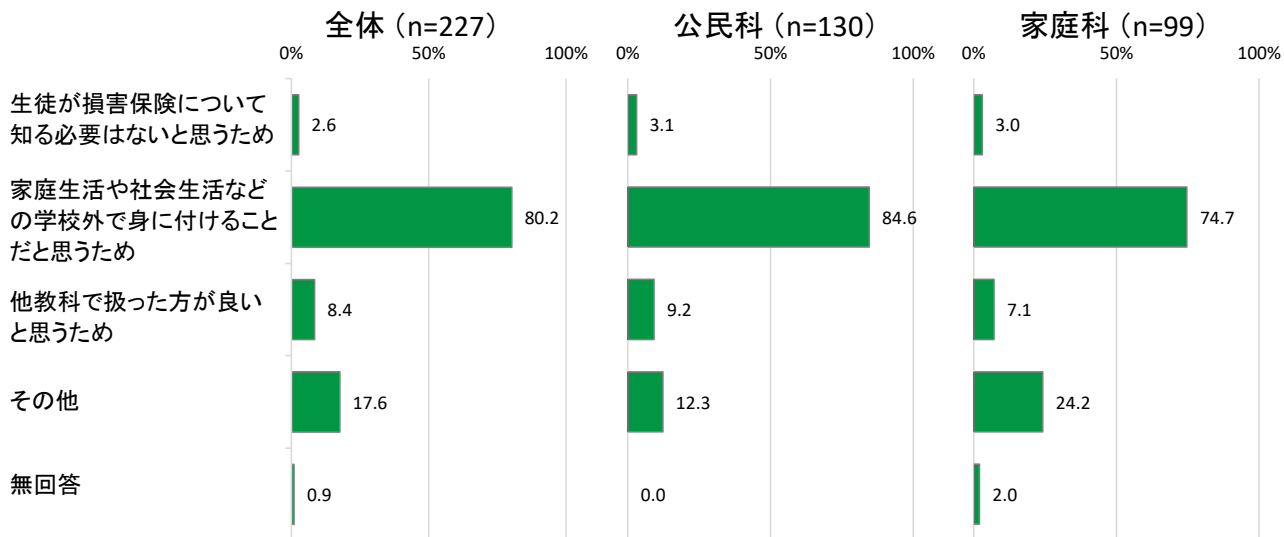
(1) 全体

損害保険に関する教育が「あまり必要でない」、「必要でない」と回答した高等学校に対し、必要ではない理由をたずねたところ、「家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため」が 80.2%と最も高く、8 割が損害保険に関する教育は学校で習う事ではないと考えている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため」が最も高いが、公民科では 84.6%、家庭科では 74.7%となっており、公民科の方が、学校外で身につけることだと思っている割合が高い。

図表 45. 損害保険に関する教育が必要ではないと考える理由＜複数回答＞



		n数	生徒が損害保険について知る必要はないと思うため	家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため	他教科で扱った方が良いと思うため	その他	無回答
全体		227	2.6	80.2	8.4	17.6	0.9
担当教科・科目	公民科	130	3.1	84.6	9.2	12.3	-
	公民科(現代社会)	113	3.5	85.0	9.7	10.6	-
	公民科(政治・経済)	74	1.4	90.5	8.1	10.8	-
	家庭科	99	3.0	74.7	7.1	24.2	2.0
	家庭科(家庭基礎)	87	2.3	74.7	8.0	24.1	2.3
	家庭科(家庭総合)	18	5.6	72.2	5.6	33.3	-
家庭科(生活デザイン)	1	-	100.0	100.0	-	-	

問 17. 今後、損害保険に関する教育の浸透に向けて、どのような取組みが重要だとお考えですか。

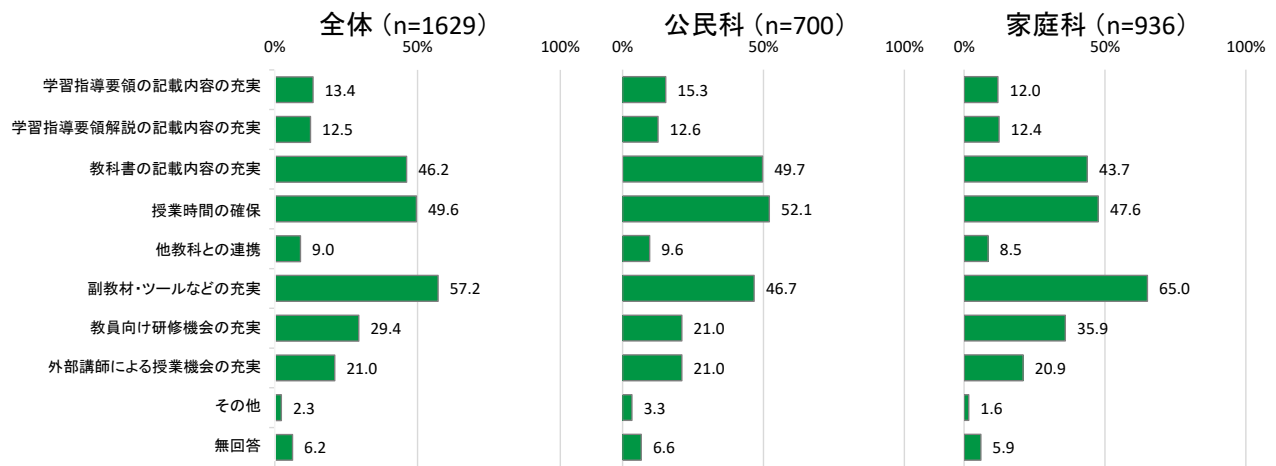
(1) 全体

今後の損害保険に関する教育の浸透に向けてどのような取組みが重要かをたずねたところ、「副教材・ツールなどの充実」が 57.2%と最も高く、次いで「授業時間の確保」が 49.6%、「教科書の記載内容の充実」が 46.2%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、重要だと考える取組みとして「副教材・ツールなどの充実」、「授業時間の確保」、「教科書の記載内容の充実」が上位 3 つに挙げられている。教科別にみると、公民科は「授業時間の確保」(52.1%)が最も高く、家庭科は「副教材・ツールなどの充実」(65.0%)が最も高い。

図表 46. 今後の損害保険に関する教育の浸透に向けての重要な取組み <複数回答>



	n数	学習指導要領の記載内容の充実	学習指導要領解説の記載内容の充実	教科書の記載内容の充実	授業時間の確保	他教科との連携	副教材・ツールなどの充実	教員向け研修機会の充実	外部講師による授業機会の充実	その他	無回答	
全体	1629	13.4	12.5	46.2	49.6	9.0	57.2	29.4	21.0	2.3	6.2	
担当教科・科目	公民科	700	15.3	12.6	49.7	52.1	9.6	46.7	21.0	21.0	3.3	6.6
	公民科(現代社会)	607	15.7	13.3	50.7	52.6	9.4	46.1	20.9	20.8	3.1	6.8
	公民科(政治・経済)	380	15.5	12.9	48.7	51.8	9.7	45.3	20.3	18.9	3.7	8.9
	家庭科	936	12.0	12.4	43.7	47.6	8.5	65.0	35.9	20.9	1.6	5.9
	家庭科(家庭基礎)	745	11.8	11.9	44.7	48.6	8.5	63.9	35.7	20.4	1.7	5.9
	家庭科(家庭総合)	257	11.7	13.6	43.6	45.1	9.7	72.0	33.1	22.2	1.2	5.4
家庭科(生活デザイン)	16	6.3	6.3	50.0	62.5	-	68.8	43.8	25.0	-	-	

問 18. 公民科および家庭科の学習指導要領解説(平成 30 年告示)では、生活上のリスクに備える観点などから、「民間保険」に触れることが示されましたが、今後、民間保険を授業で取扱う予定はありますか。

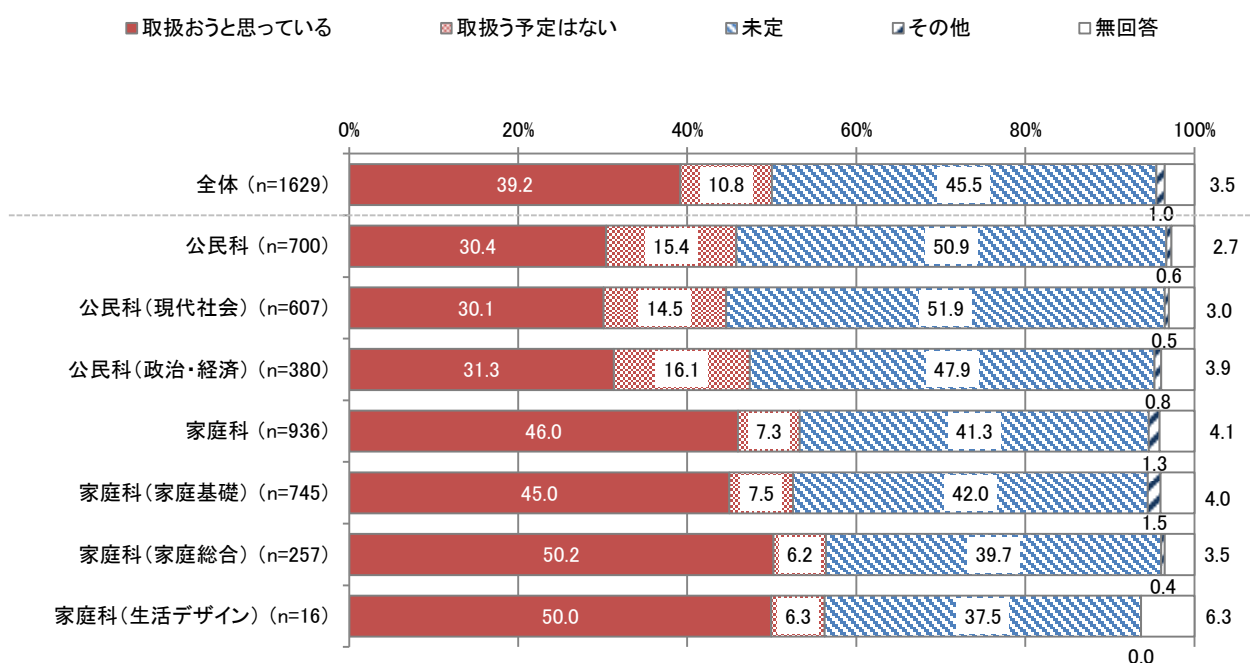
(1) 全体

今後民間保険を授業で取り扱う予定があるかたずねたところ、「未定」が 45.5%と最も高く、次いで「取扱おうと思っている」が 39.2%となっている。

(2) 担当教科・科目別

「取扱おうと思っている」が公民科では 30.4%、家庭科では 46.0%であることから、家庭科の方が公民科と比較して、授業で民間保険を取り扱うことに積極的であることがうかがえる。

図表 47. 今後、民間保険を授業で取扱う予定の有無 <単一回答>



問 18-1. 取扱う予定がない理由をお聞かせください。

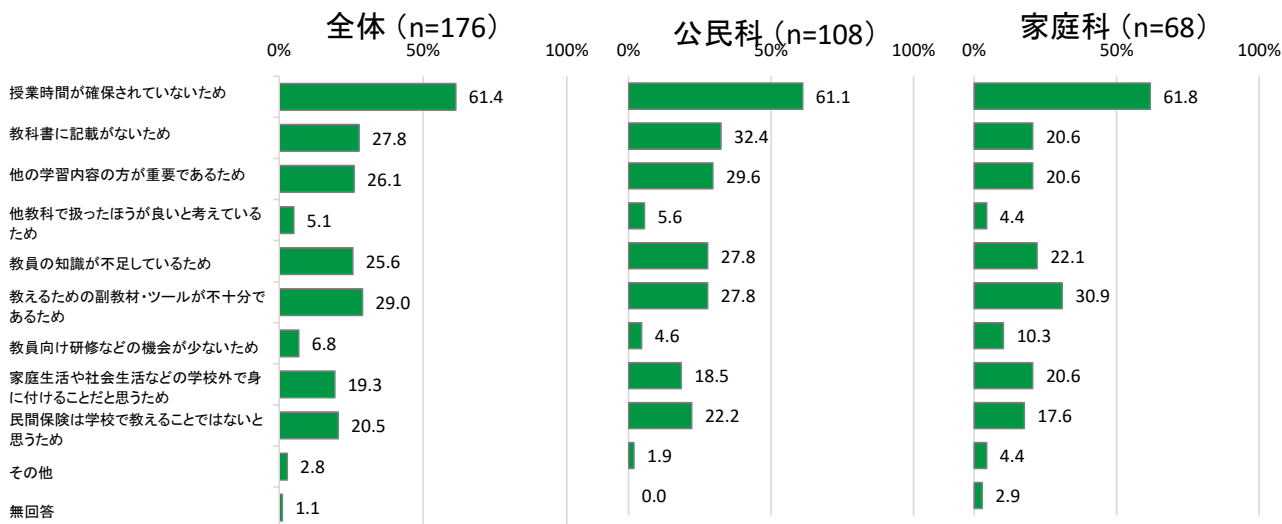
(1) 全体

今後、民間保険を授業で取扱う予定がないと回答した高等学校に、取扱う予定がない理由をたずねたところ、「授業時間が確保されていないため」が 61.4%と最も高く、次いで「教えるための副教材・ツールが不十分であるため」、「教科書に記載がないため」がいずれも 3 割近い回答(29.0%、27.8%)となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「授業時間が確保されていないため」が最も高い。公民科では「教科書に記載がないため」が 32.4%と次いで高く、家庭科(20.6%)と比較しても高い。公民科の方が教科書に記載がないことが理由で民間保険を授業で取扱う予定がないと考えている割合が高い。また、「他の学習内容の方が重要であるため」について公民科は 29.6%、家庭科では 20.6%となっており、公民科の方が、家庭科よりも民間保険の授業よりも他の学習内容の方が重要だと考えている割合が高い。

図表 48. 民間保険を授業で取扱う予定がない理由 <複数回答>



	n数	授業時間が確保されていないため	教科書に記載がないため	他の学習内容の方が重要であるため	他教科で扱ったほうが良いと考えているため	教員の知識が不足しているため	教えるための副教材・ツールが不十分であるため	教員向け研修などの機会が少ないため	家庭生活や社会生活などの学校外で身に付けることだと思うため	民間保険は学校で教えることではないと思うため	その他	無回答
全体	176	61.4	27.8	26.1	5.1	25.6	29.0	6.8	19.3	20.5	2.8	1.1
担当教科・科目	公民科	108	61.1	32.4	29.6	5.6	27.8	4.6	18.5	22.2	1.9	-
	公民科(現代社会)	88	63.6	31.8	29.5	5.7	29.5	27.3	4.5	17.0	23.9	2.3
	公民科(政治・経済)	61	63.9	27.9	34.4	3.3	27.9	23.0	4.9	18.0	26.2	1.6
	家庭科	68	61.8	20.6	20.6	4.4	22.1	30.9	10.3	20.6	17.6	4.4
	家庭科(家庭基礎)	56	64.3	23.2	21.4	5.4	21.4	25.0	5.4	25.0	16.1	3.6
	家庭科(家庭総合)	16	43.8	12.5	18.8	-	18.8	56.3	25.0	6.3	25.0	6.3
家庭科(生活デザイン)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

6. 今後の学校での「生活におけるリスク」および損害保険の教育について

問 19. 学校で「生活におけるリスク」および損害保険の教育を推進することについて、ご意見・ご要望等お聞かせください。

学校で「生活におけるリスク」および損害保険の教育を推進することについて自由記述回答方式でたずねたところ多く見られた意見・要望等は、下記①～⑤のとおりである。

- ① 「生活におけるリスク」および損害保険教育の必要性の認識に関するもの
- ② 教科書の記載内容不足、副教材の活用に関するもの
- ③ 授業時間に対して授業内容が多いことによる授業時間不足に関するもの
- ④ 教員の知識の修得に関するもの
- ⑤ 特定企業の営利活動に加担する懸念に関するもの

<ご意見・ご要望等(抜粋)>

- ・将来設計するうえでリスクマネジメントは必要不可欠であり、教えるべき事である
- ・多様化する生活様式の中で、リスクを考え、それに備えておくことは大切である
- ・現在、様々なリスクが存在するので、損害保険等の意味を知ることは重要である
- ・教員の知識を補うための教科書、副教材の充実が必要である
- ・教科書にほとんど記載がなく、副教材などがあれば授業で生かせると思う
- ・教員の知識をアップデートできるような教材の必要性を感じる
- ・授業時間の確保が難しいので、1時間程度でわかりやすい教材を作ってほしい
- ・中立的な立場で授業ができるような、適切な教材を作ってほしい
- ・重要性は理解しているが、とにかく授業時間数が少なすぎて実施できないのが現状である
- ・授業内容の多さと授業時間が釣り合わない
- ・2単位では時間が不足しているので、4単位にするなどの措置をしてほしい
- ・人生設計を考える上で必要な知識だと思うが、教員の知識が不足しているため教えることに不安がある
- ・正しい知識や最新の内容を教員が学ぶ必要がある
- ・教員自身の知識も十分とは言えないので、いろいろな形の情報提供や研修などを行ってほしい
- ・外部講師の派遣活用等を行い、教員も知識を広めたい
- ・教員側も保険についての知識も少ないので、要点が短くまとまったものがほしい
- ・民間保険を宣伝しているようにとられる懸念がある
- ・企業の営業にならないか心配である

問 20. 授業や教育に関する情報はどのように収集しているかお聞かせください。

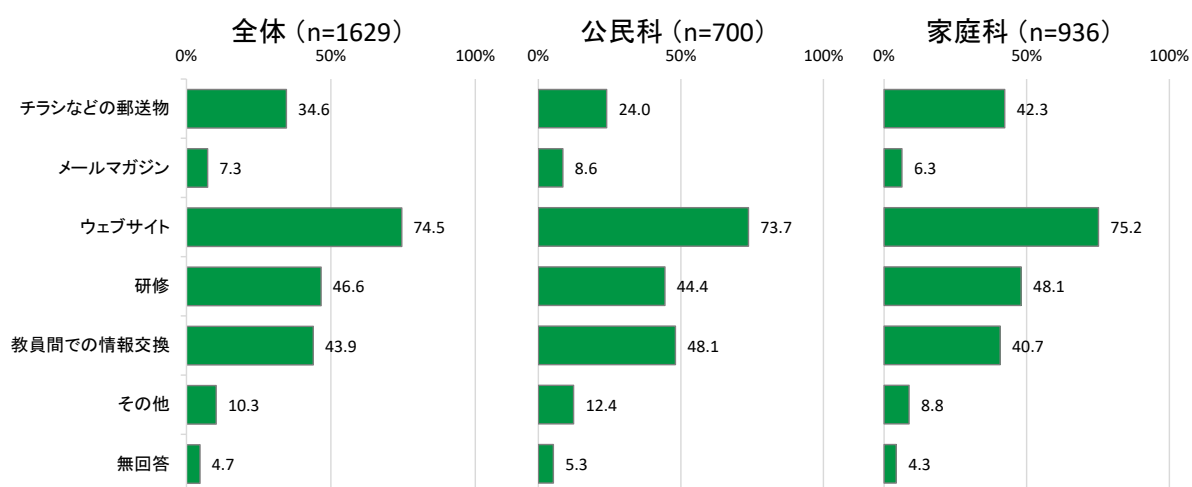
(1) 全体

回答のあった高等学校に、どのように情報を収集しているかたずねたところ、「ウェブサイト」が 74.5%と最も高く、次いで「研修」が 46.6%、「教員間での情報交換」が 43.9%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で共通して、「ウェブサイト」で情報を収集している割合が最も高い。一方で、「チラシなどの郵送物」に関して、家庭科で 42.3%、公民科で 24.0%となっており、家庭科の方が、郵送物で情報収集している割合が高かった。

図表 49. 授業や教育に関する情報の収集方法 <複数回答>



		n数	チラシなどの郵送物	メールマガジン	ウェブサイト	研修	教員間での情報交換	その他	無回答
全 体		1629	34.6	7.3	74.5	46.6	43.9	10.3	4.7
担当教科・科目	公民科	700	24.0	8.6	73.7	44.4	48.1	12.4	5.3
	公民科(現代社会)	607	25.0	8.2	74.1	44.6	47.8	13.2	5.1
	公民科(政治・経済)	380	22.4	10.0	73.9	47.1	49.2	12.1	6.6
	家庭科	936	42.3	6.3	75.2	48.1	40.7	8.8	4.3
	家庭科(家庭基礎)	745	42.7	6.7	75.3	48.1	39.9	8.5	4.4
	家庭科(家庭総合)	257	40.1	4.3	76.3	46.7	43.6	8.2	3.9
家庭科(生活デザイン)	16	37.5	-	100.0	37.5	43.8	12.5	-	

問 21. 日本損害保険協会は、「副教材・ツール提供」「講師派遣」「教員向けセミナー」に取り組んでいます。以下の中でご存知のものがあればご回答ください。

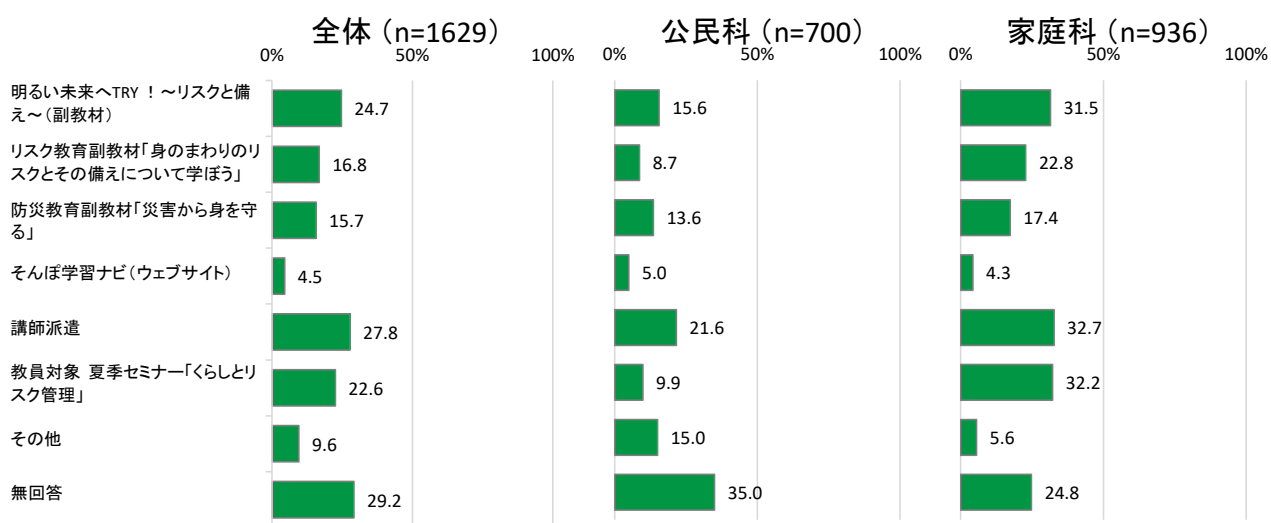
(1) 全体

回答のあった高等学校に、日本損害保険協会の取り組みについて知っているものをたずねたところ、「講師派遣」が 27.8%と高く、次いで「明るい未来へ TRY！～リスクと備え～(副教材)」が 24.7%となっている。

(2) 担当教科・科目別

各教科で比較すると、「そんぽ学習ナビ(ウェブサイト)」を除く、すべての項目において、家庭科の認知率の方が高い結果となっている。

図表 50. 日本損害保険協会の取り組みの認知 <複数回答>



		全体	明るい未来へ TRY！～リスクと備え～(副教材)	リスク教育副教材「身のまわりのリスクとその備えについて学ぼう」	防災教育副教材「災害から身を守る」	そんぽ学習ナビ(ウェブサイト)	講師派遣	教員対象 夏季セミナー「くらしとリスク管理」	その他	無回答
全体		1629	24.7	16.8	15.7	4.5	27.8	22.6	9.6	29.2
担当教科・科目	公民科	700	15.6	8.7	13.6	5.0	21.6	9.9	15.0	35.0
	公民科(現代社会)	607	16.0	9.2	13.3	4.8	22.4	9.9	14.3	35.3
	公民科(政治・経済)	380	16.1	8.7	15.3	6.1	20.3	10.0	15.8	33.7
	家庭科	936	31.5	22.8	17.4	4.3	32.7	32.2	5.6	24.8
	家庭科(家庭基礎)	745	32.2	21.9	17.7	4.4	32.8	31.8	5.2	25.0
	家庭科(家庭総合)	257	29.2	23.0	16.7	3.9	32.3	30.0	7.4	23.7
家庭科(生活デザイン)	16	12.5	12.5	18.8	-	25.0	25.0	6.3	31.3	